

令和6年度 DMO調査分析業務

(1) 満足度、観光消費等
マーケティングデータ収集及び分析

③ 八幡平市の観光事業者／市民調査
(添付資料3)

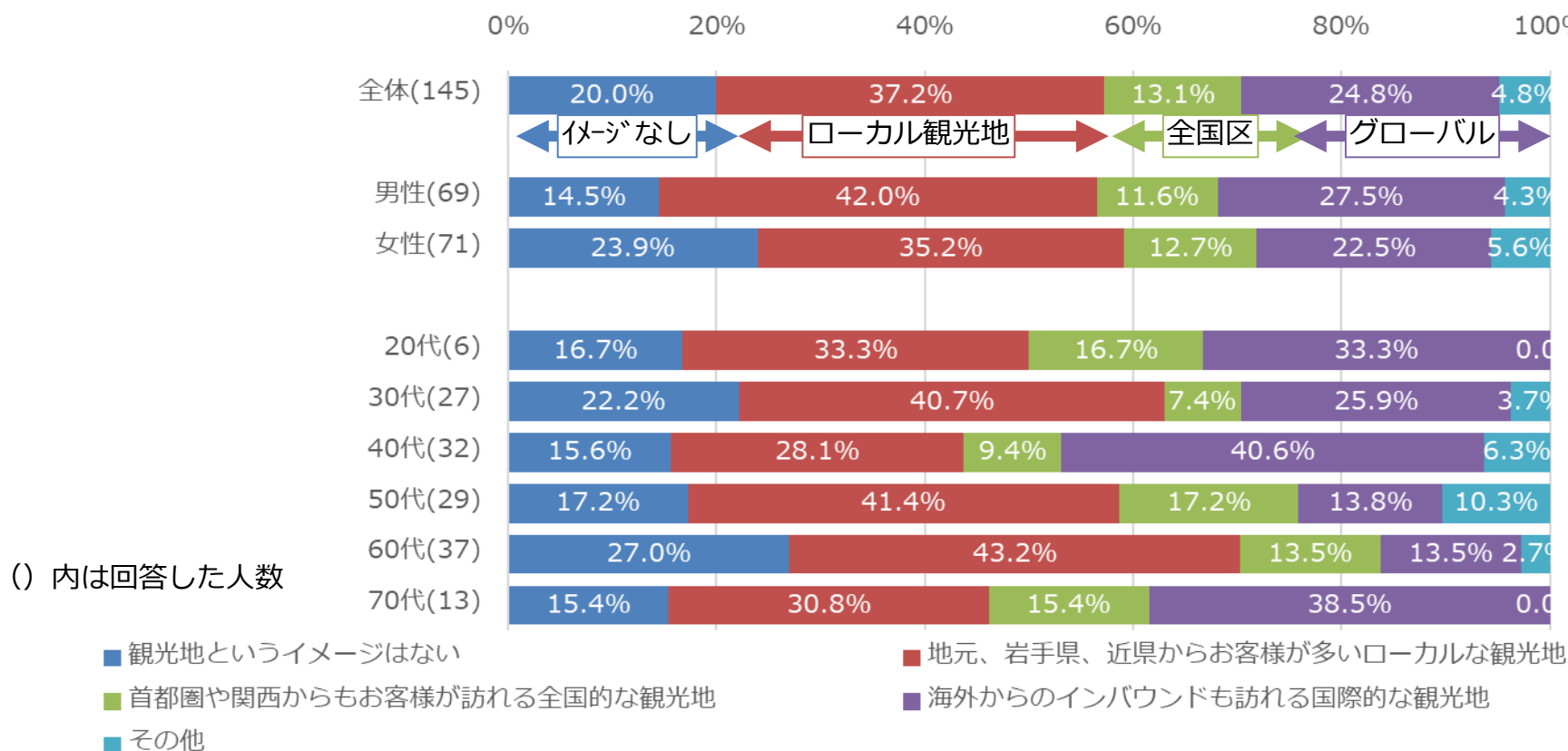
2025/03/26
株式会社八幡平DMO
取締役 柴田 亮

- 調査目的
 - 八幡平市民の観光に関する意識や意見を収集し、また、観光に関する市民参加意識を確認する
 - 併せて市民からメーリングリストの登録者も募る
- 設問数：20問
- 調査期間：令和7年2月1日～令和7年3月16日
- 観光事業者を含む八幡平市民
- アンケート手法：インターネットによるアンケート調査
- プロモーション手法：八幡平市のLINEによる告知、
岩手日報折り込み広告
回答者から抽選で10名に市産品のプレゼントを実施
- 調査票配布数：1000枚（折り込み広告）
- 収集サンプル数：255名

1. 八幡平市の観光イメージ (1) 性別、年齢別

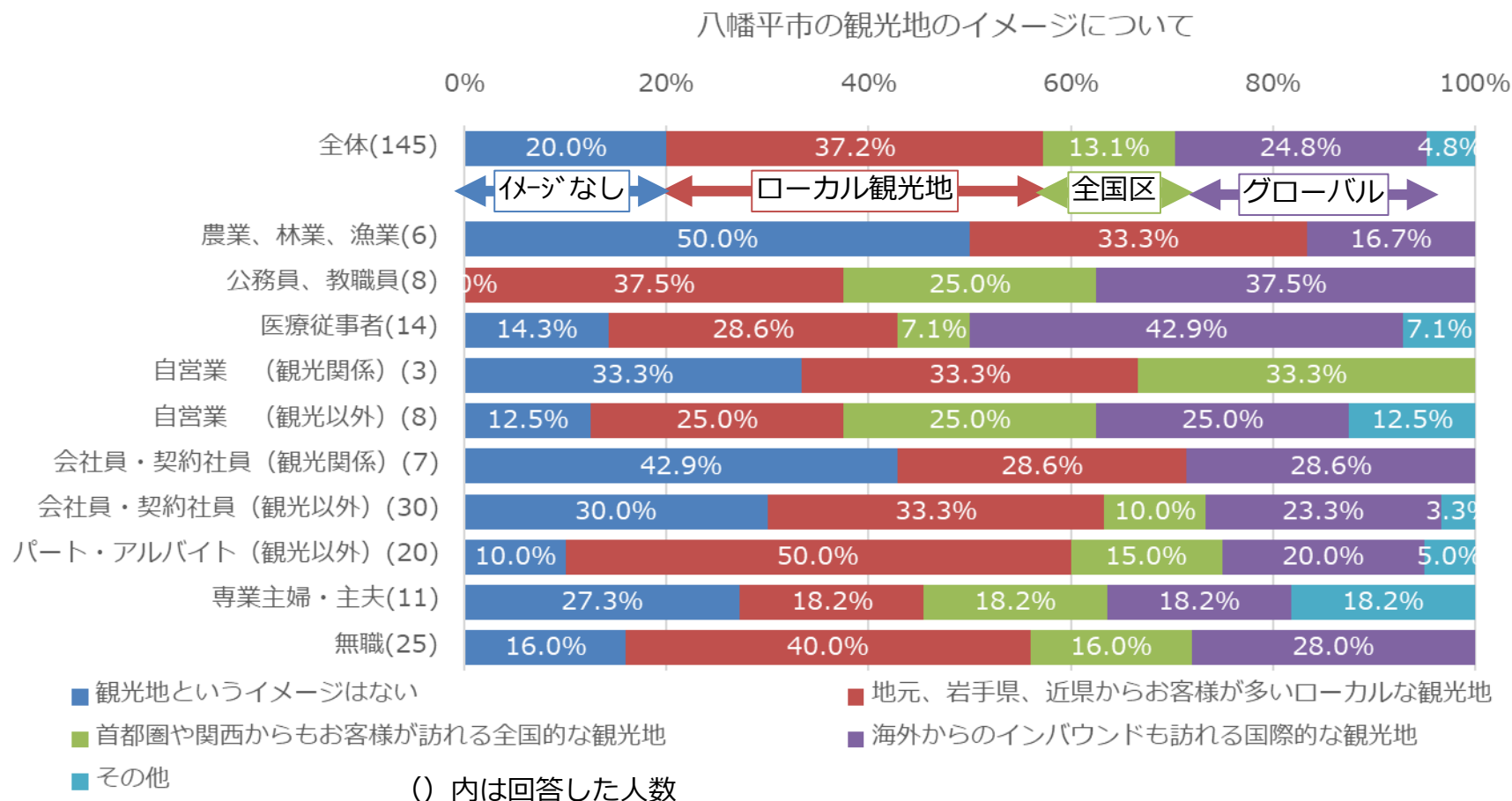
- 八幡平市はコロナ前に宿泊客に占めるインバウンドの割合が25%近くになったにも関わらず、市民の20%はそもそも観光地というイメージがなく、37%は「ローカルな観光地」という認識である
- ただ、『国際的な観光地』と認識している人は24.8%で、昨年度の21.7%より認識が広まっている
- 特に男性のほうが全般的に観光地の認識度が高く、20代～40代は最もグローバルなイメージを思っている
- 一方、50代以上はグローバルなイメージが少なく、特に60代は観光地というイメージを持っていなかったり、持ってもローカルな観光地という認識である

八幡平市の観光地のイメージについて



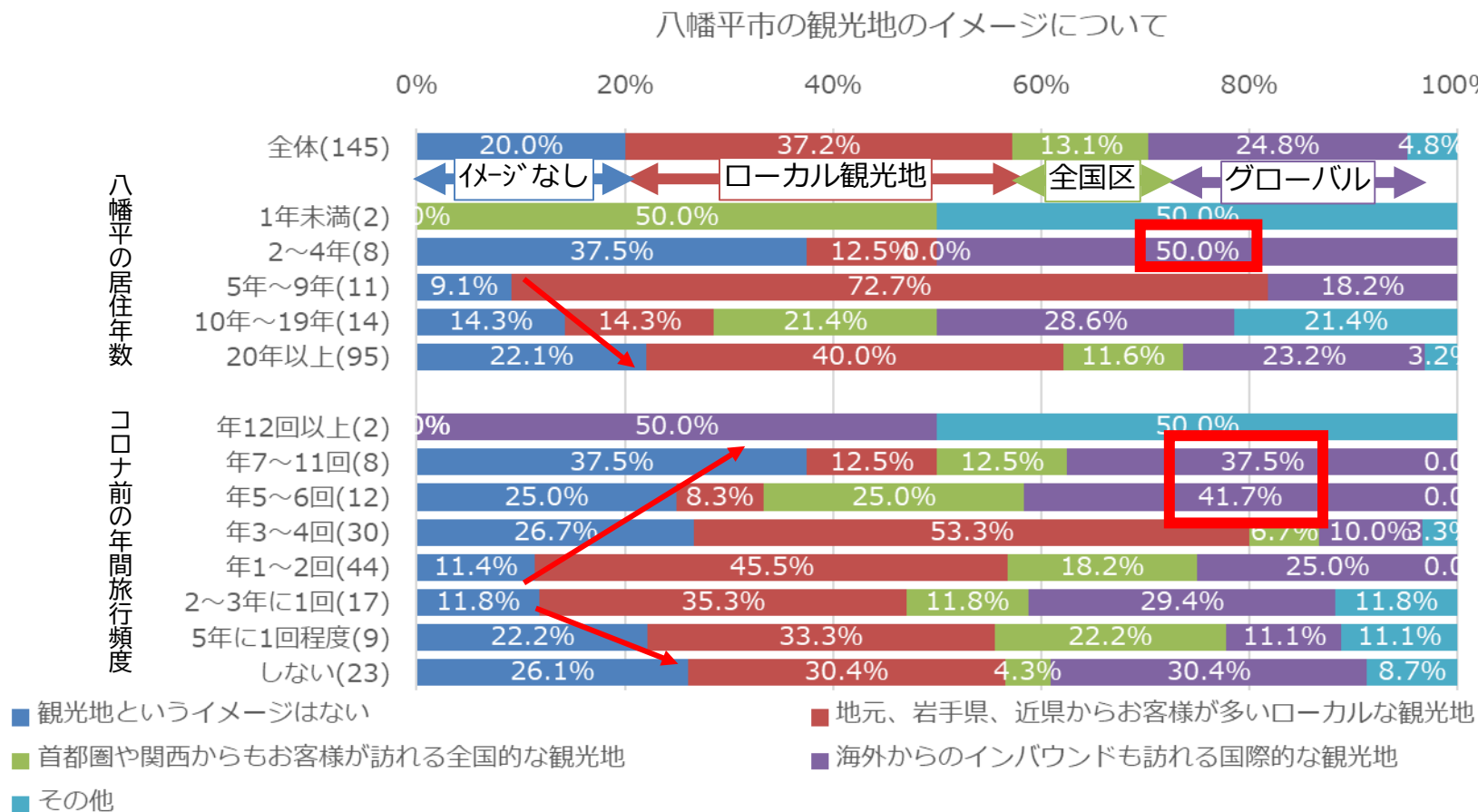
1. 八幡平市の観光イメージ (2) 職業別

- 国際観光地のイメージは観光関係の公務員、教職員、医療関係者に高い
- 農林漁業、会社員、契約社員はあまり観光地というイメージがなかったりローカルな観光地と思っている
- 無職はローカルな観光地と思っている人が多い一方で、グローバルという認識している人も多い



1. 八幡平市の観光イメージ（3）八幡平居住年数、年間旅行頻度

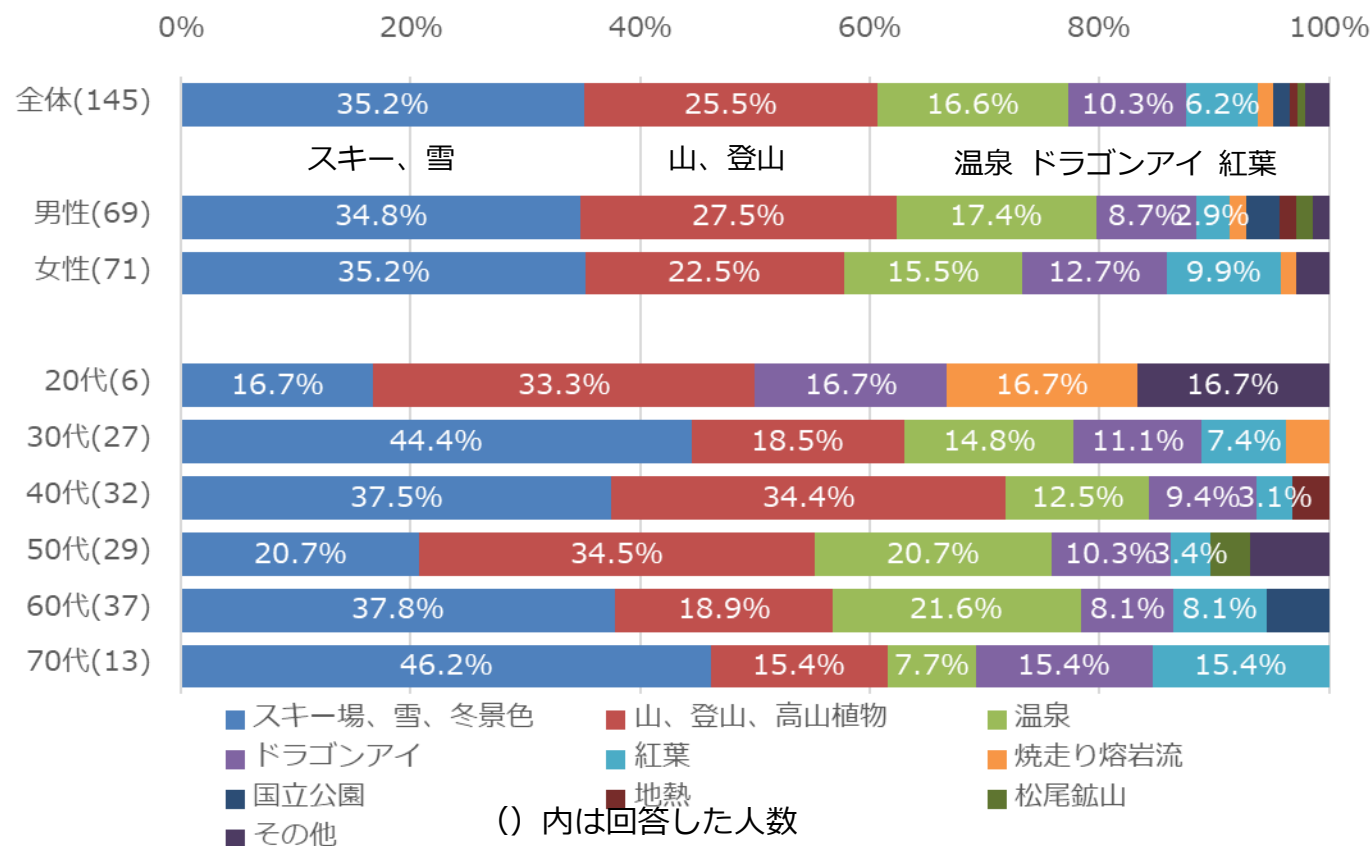
- 居住年数が短い市民ほどグローバルなイメージの割合が多いが、長く住むほどにイメージが薄くなる（もしくは、移住した際のイメージが影響を与えている。）安比のスキーが盛んであった頃を知る10年、20年以上の居住者が全国区のイメージを持っていたもおかしいが、当時ほどの勢いがなくなることからローカルな観光地というイメージになってしまったのかもしれない
- 旅行頻度が高いほど八幡平は観光地ではないというイメージが高い。旅行頻度が高いと、かえって自身の住む場所を観光地としてイメージしづらいのかもしれない。旅行頻度が高い市民に自分の住む地域が観光地であることを認識してもらって、その経験を観光地域づくりに活かすようにしてもらえれば理想であり、旅行頻度の高い人への啓蒙も大事と思われる



2. 八幡平市の観光資源のイメージ (1)性別、年齢別

- 八幡平市民の99.3%は八幡平市の観光資源について思い浮かぶ。市民にとって、観光資源が身近な存在であると考えられる
- 八幡平市民の35%がスキーをイメージし、次いで4人に一人は山や登山、16%が温泉で、1割がドラゴンアイと続く
- 男女では大きな差はないが、やや男性のほうが温泉を意識し、女性はドラゴンアイや紅葉のイメージが強い
- 30代、40代、60代、70代はスキーのイメージが多いが50代と20代は少ない。登山は20代、40代、50代のイメージが強く、温泉は50代、60代が多い。ドラゴンアイは10代、70代がイメージしやすく、20代では焼け走り溶岩流を思い浮かべる人もいる

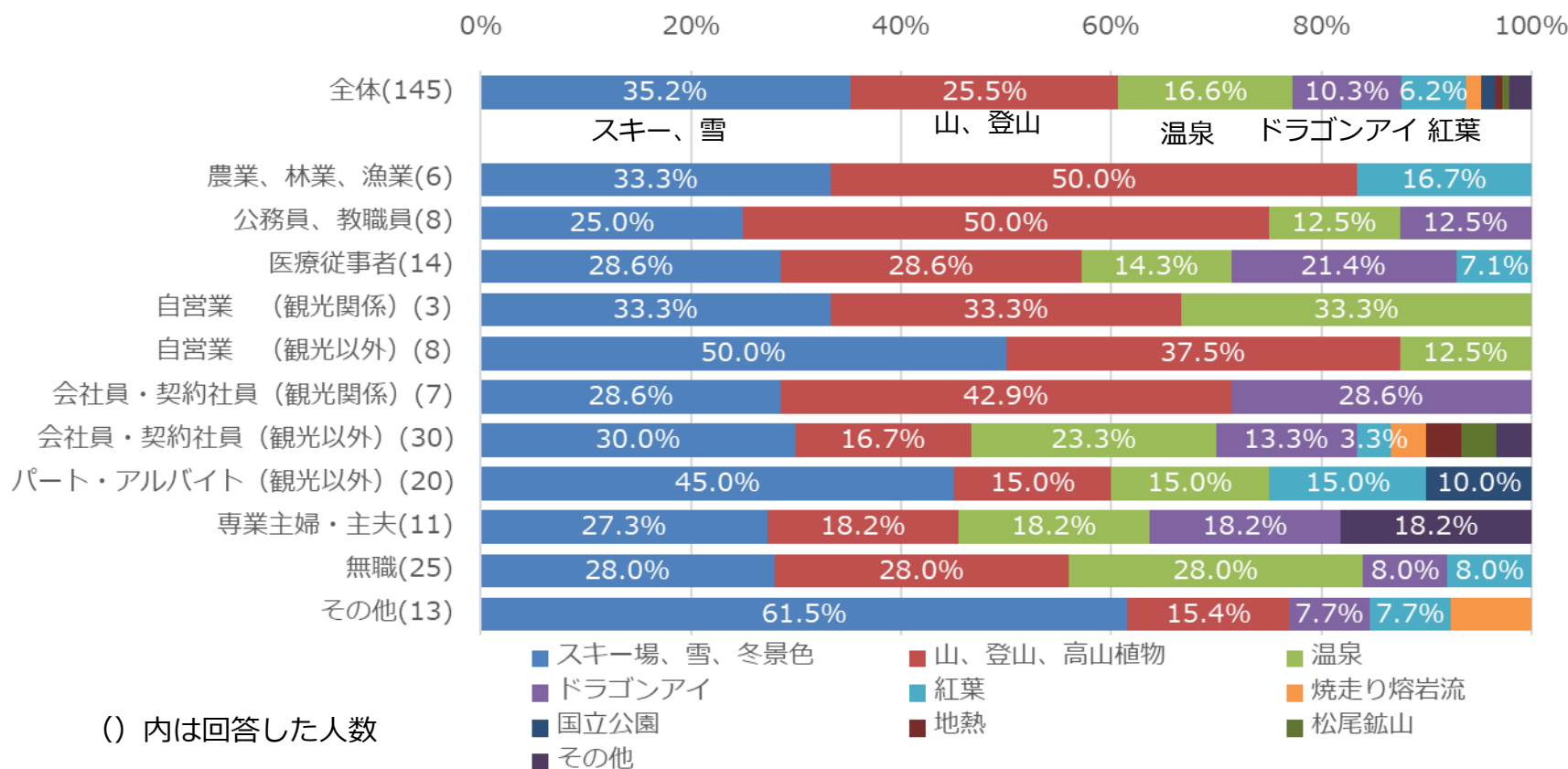
「八幡平の観光」と聞いて最も強く思い浮かぶ観光資源について



2. 八幡平市の観光資源のイメージ (2)職業別

- ・ 職業別では観光関係以外の自営業者でスキーをイメージするほか、パートアルバイトでも多い
- ・ 農林漁業や公務員、教職員の半分は山や登山をイメージしている
- ・ 温泉では観光関係の自営業や観光以外の会社員が多い

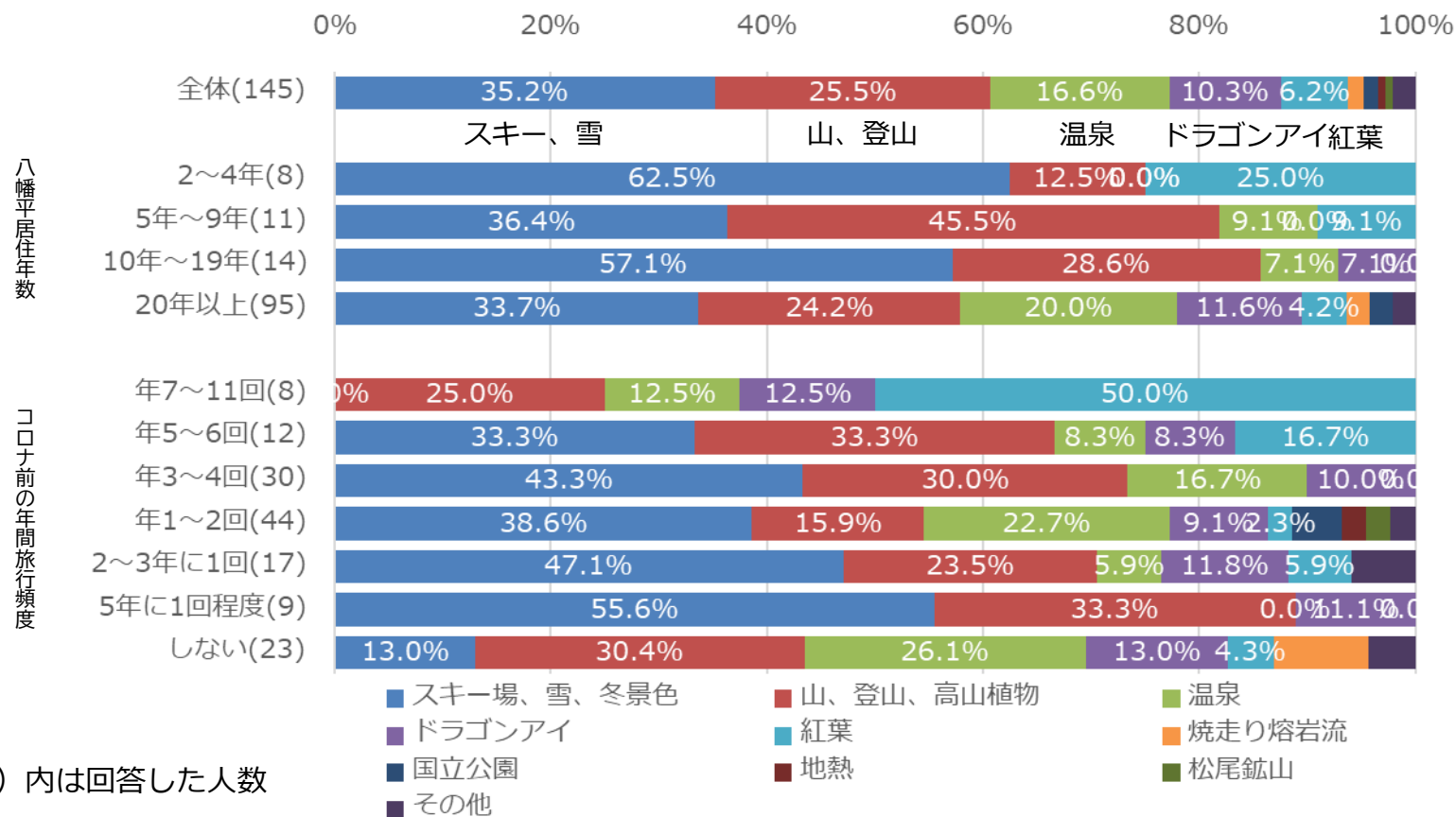
「八幡平の観光」と聞いて最も強く思い浮かぶ観光資源について



2. 八幡平市の観光資源のイメージ (3)居住年数、観光頻度別

- ・ 居住年数では経年による大きな傾向はない
- ・ 旅行回数が少ないほどスキー場のイメージが強く、旅慣れていると紅葉の価値に気が付く人が多いともいえる
- ・ 旅行を全くしない人はスキーのイメージも少なく、日常的に目にする山や温泉のイメージが高い

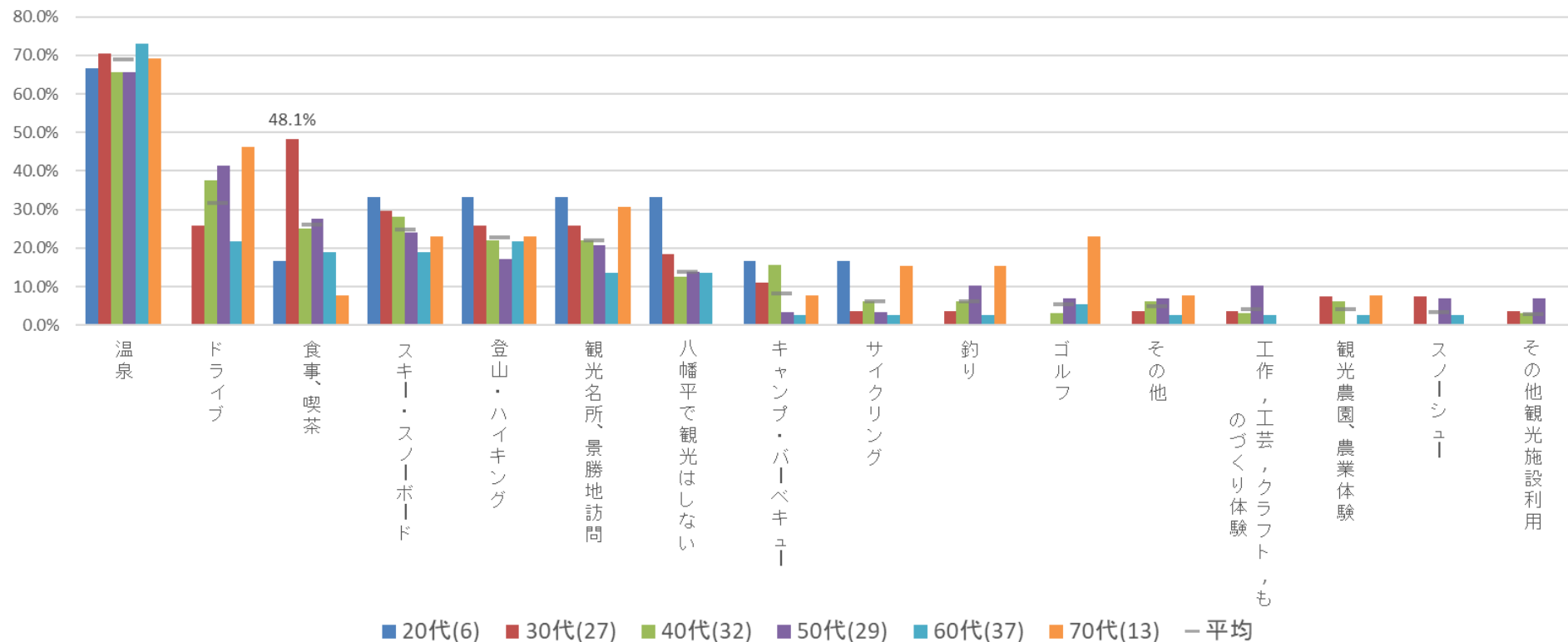
「八幡平の観光」と聞いて最も強く思い浮かぶ観光資源について



3. 八幡平市民が親しんでいる観光 (2) 年齢別

- ・ 温泉などでは年齢別の差があまり見られない
- ・ ドライブは60代を除いて、年齢が上がるほど楽しんでいる
- ・ 食事や喫茶については30代が圧倒的に多い
- ・ スキーやスノーボードは年齢が上がるほどに参加率が下がっている。登山は中年層では減るが、高齢層で再び増加する傾向
- ・ 八幡平で観光はしないのは20代が多い

あなた自身が八幡平で楽しまっているもの

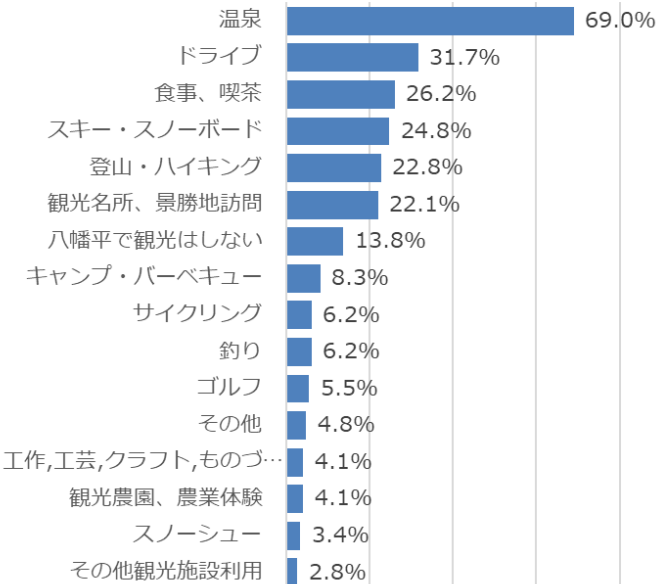


3. 八幡平市民のアクティビティ (1) 全体および男女別

- ・ 八幡平市民が八幡平で実際に親しんでいる観光では、圧倒的に温泉が多く、次にドライブや食事など気軽に楽しめるものが続く
- ・ スキーやスノーボードは4人に1人、登山などは22%と、少なくはないが、これだけ身近で楽しめる環境があるのに勿体ない
- ・ 男女別では、全体的に男性のほうが実施率が高いが、特にスキースノーボードや登山では差が多く、八幡平で観光はしないというので女性が多い。女性の参加率が相対的に低い傾向である

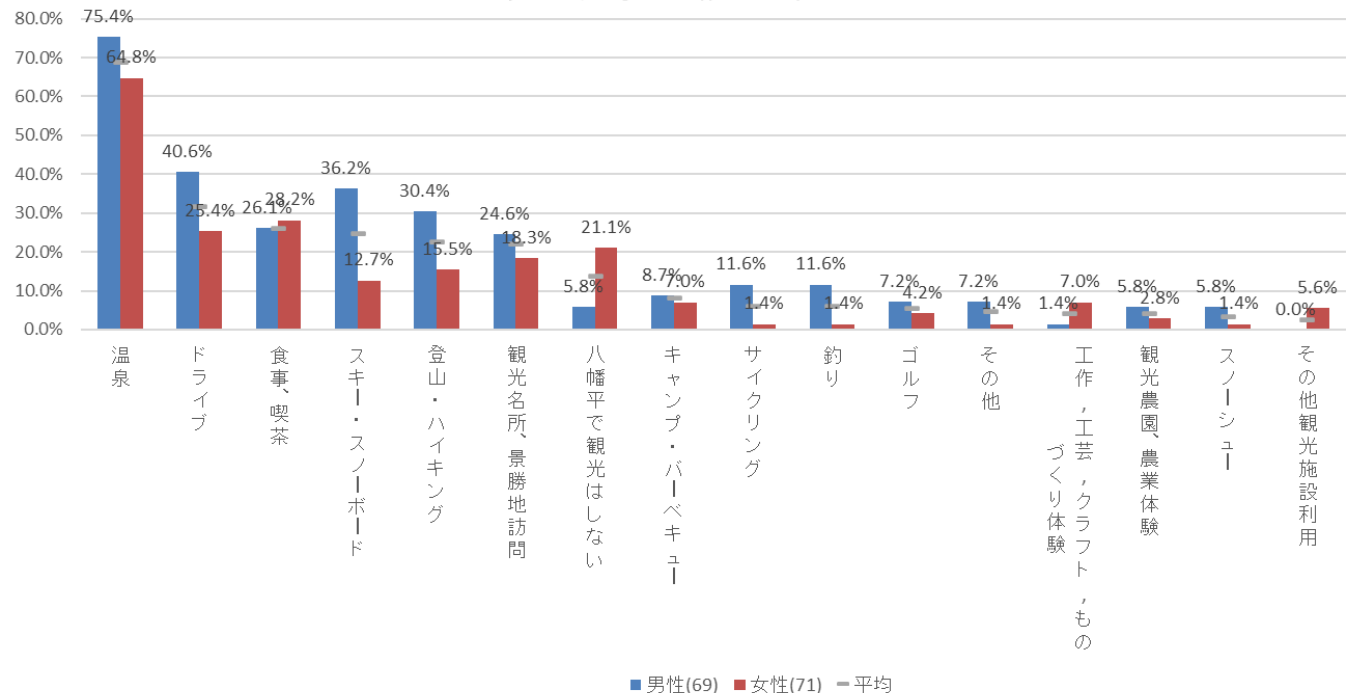
あなた自身が八幡平で楽しんでいるもの

0.0% 20.0% 40.0% 60.0% 80.0%



数字は回答数

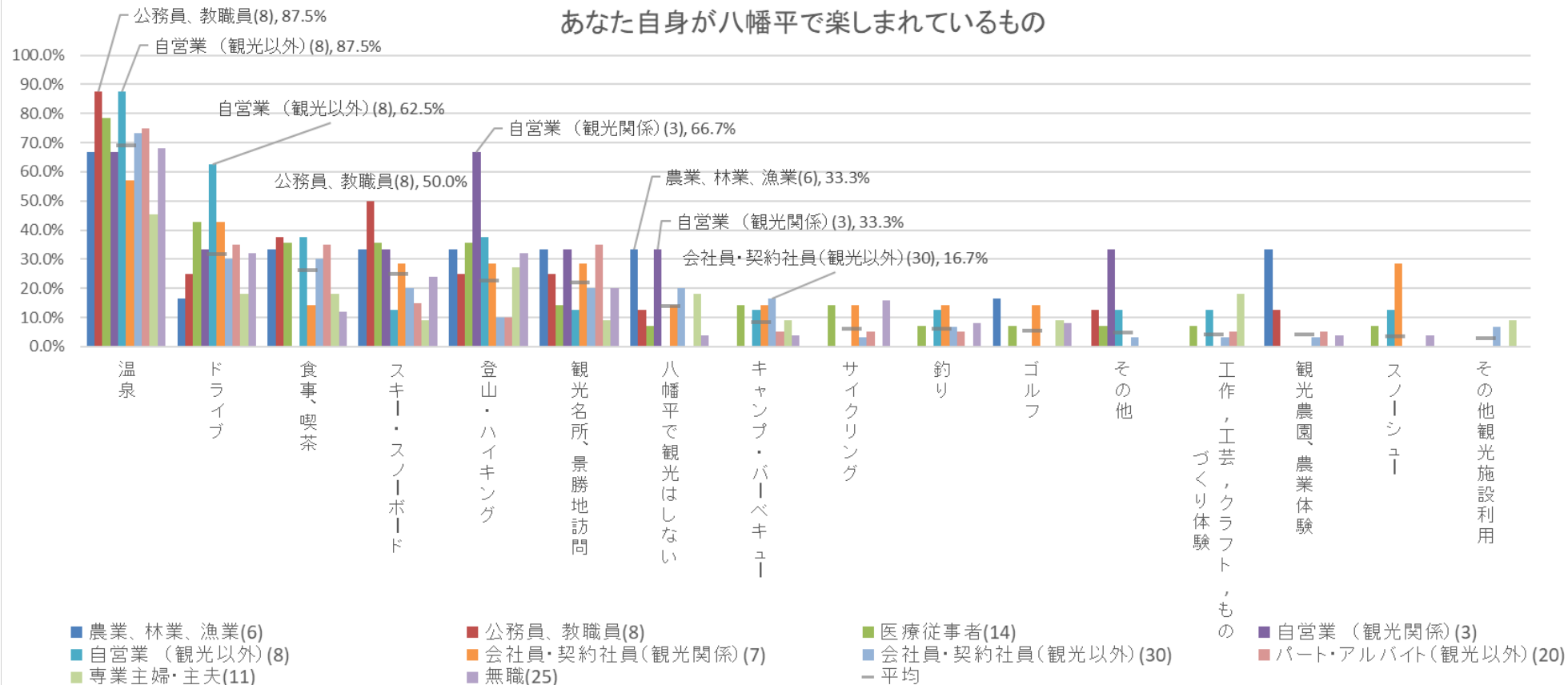
あなた自身が八幡平で楽しんでいるもの



3. 八幡平市民のアクティビティ (2) 職業別

- ・ 温泉などでは公務員、教職員や観光以外の自営業者が楽しんでいる割合が高い
- ・ 観光以外の自営業者はドライブの実施率も高い
- ・ スキースノーボードでは公務員、教職員の割合が高い。公務員教職員は比較的様々な観光を八幡平で楽しんでいる
- ・ 登山ハイキングではサンプルは少ないが観光関係の自営業者の割合が高い
- ・ 農林漁業関係者や観光関係の自営業者ではサンプルは少ないが観光をしない人の割合が高い

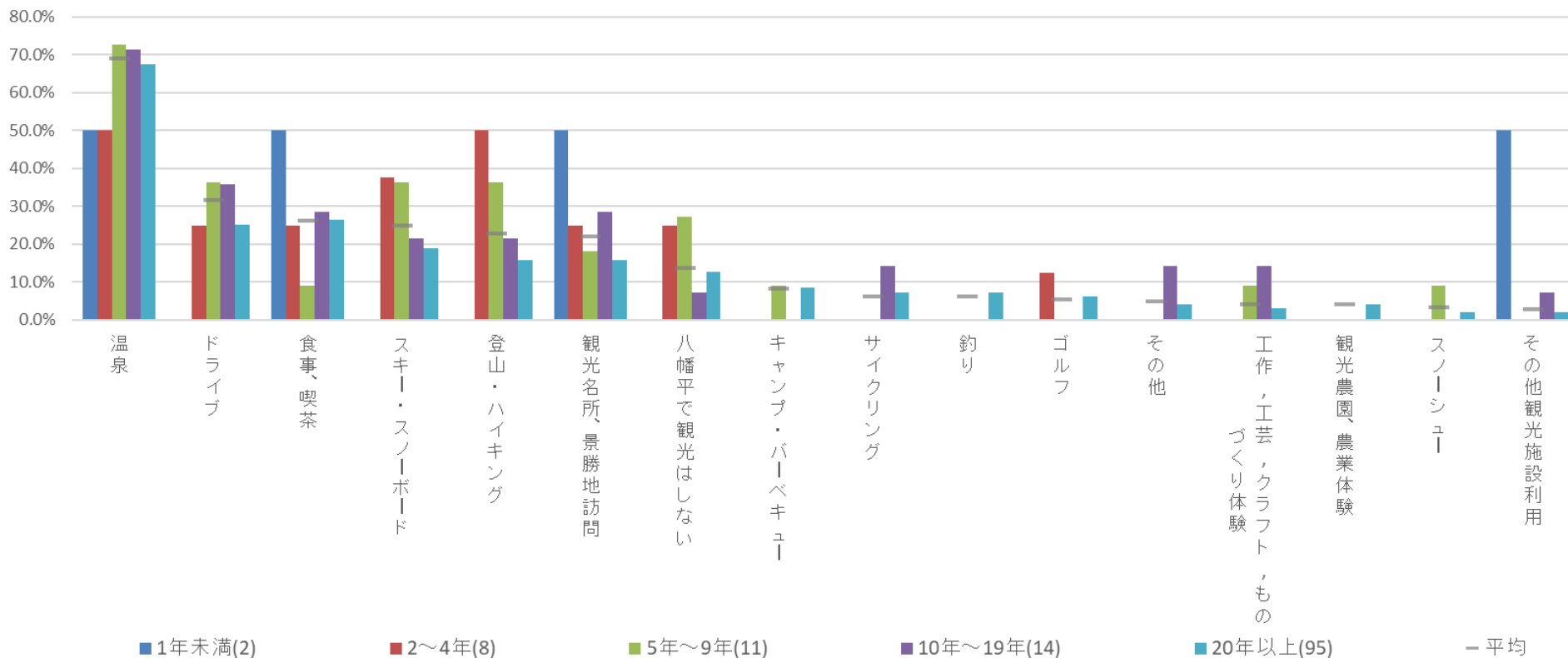
あなた自身が八幡平で楽しまれているもの



3. 八幡平市民のアクティビティ (3) 居住年数別

- ・ 居住年数が5年以上になると温泉を楽しむ割合が大きくあがる
- ・ スキースノーボードでは2年～9年目までの居住者で割合が高く、それ以上住んでいる人はあまりやらない
- ・ 登山は2年～4年をピークに居住年数が長くなるとやらなくなる
- ・ 一般的に居住年数が長くなる実施率が下がる傾向があるが、サンプル数が多くなることも影響している

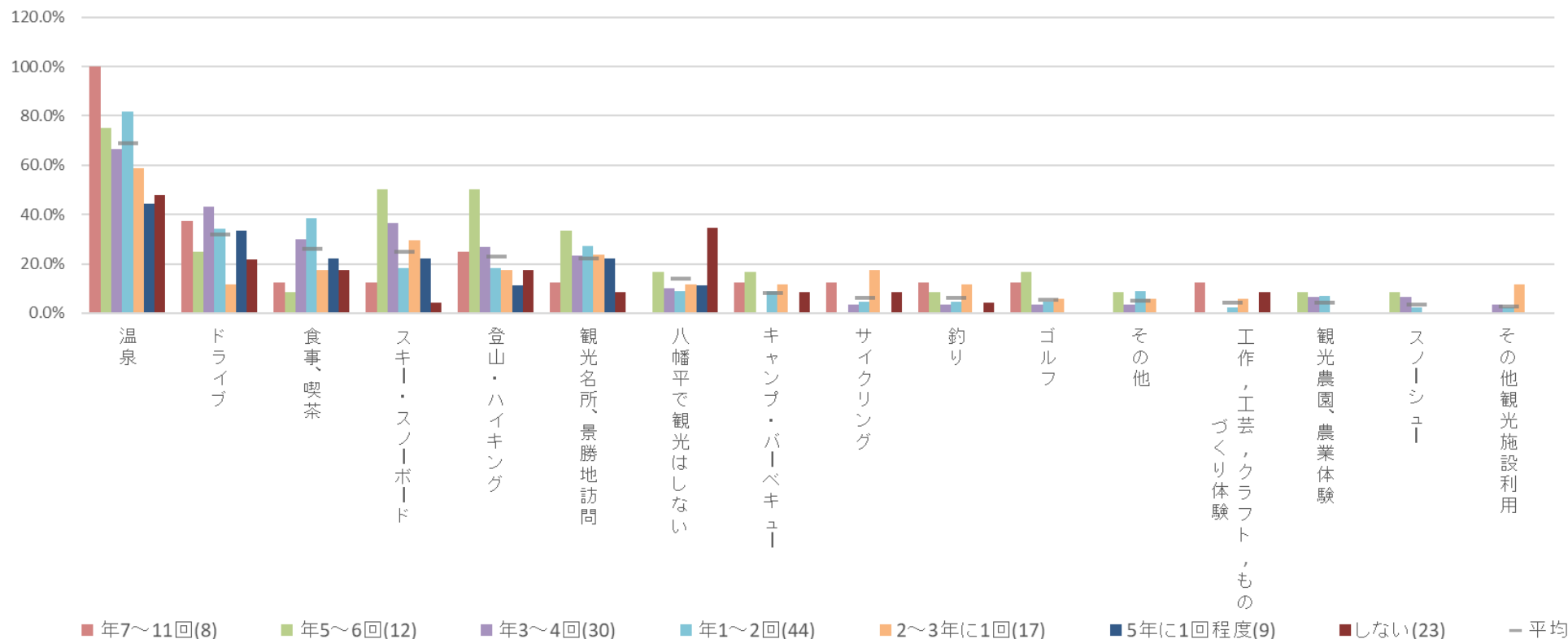
あなた自身が八幡平で楽しまれているもの



3. 八幡平市民のアクティビティ（４）旅行回数別

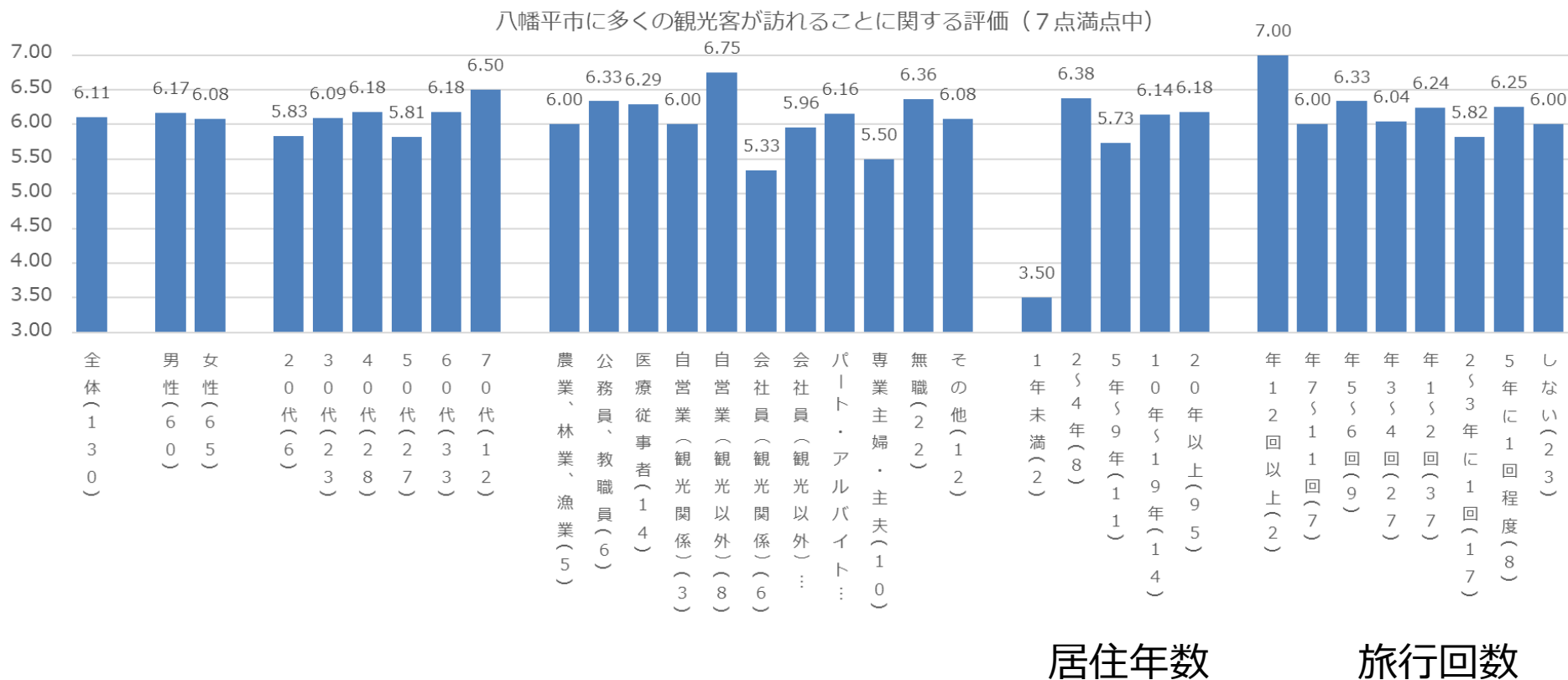
- 旅行回数が多い人ほど温泉の実施率が高い
- スキーやスノーボード、登山ハイキングでは年間5, 6回旅行するアクティブな人が楽しんでいる

あなた自身が八幡平で楽しんでいるもの



4.八幡平に多くの観光客が訪れることに対する評価

- 八幡平に観光客が訪れることに対して、「とても良いことだと思う（7点）」「良いことだと思う（6点）」「どちらかというの良いことだと思う（5点）」「どちらとも言えない（4点）」「あまり良いと思わない（3点）」「良いと思わない（2点）」「全く良いと思わない（1点）」としたところ、全体平均で6.11点となり、昨年の6.45点から下がってしまった。昨今、オーバーツーリズムに対する報道も影響していると思われる
- 男性のほうが比較的前向きで、年齢が高くなるほど評価が高い
- 観光以外の自営業などは前向きだが、サンプルが少ないものの、観光関係の会社員があまり前向きではないのは問題



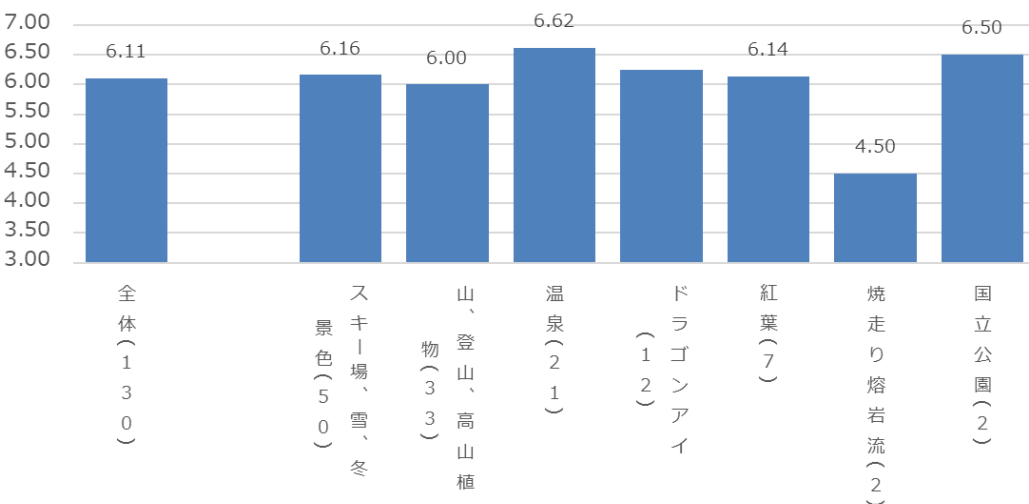
4.八幡平に多くの観光客が訪れることに対する評価

(2)



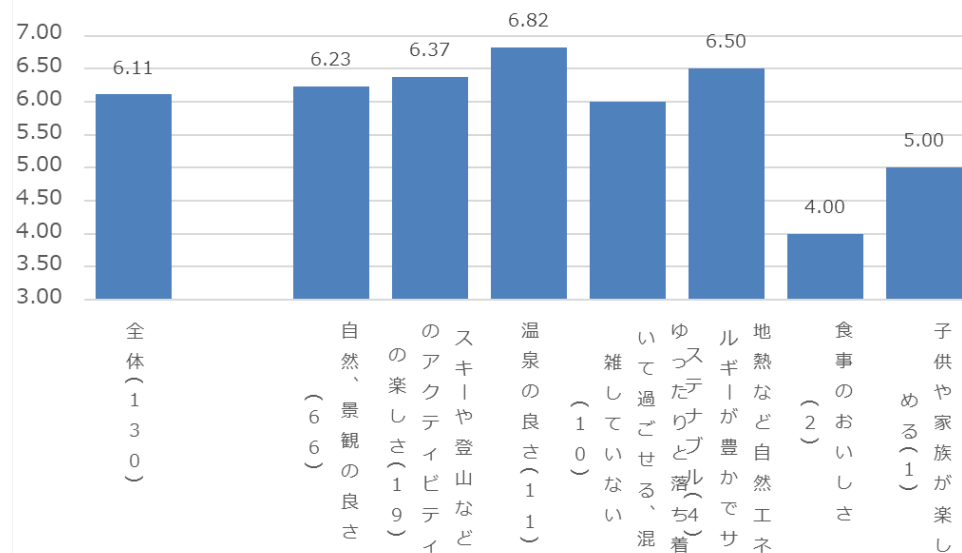
- ・ 八幡平に観光客が多く訪れることに対しての評価を、八幡平市の観光のイメージや知り合いにお勧める八幡平の観光のポイントで答えた内容別に平均を集計した
- ・ 八幡平の観光といえば温泉と思いつく人は比較的観光客に前向きで、知り合いに温泉をお勧めする人も前向きである
- ・ 焼け走り溶岩流や山や登山を思いつく人は全体平均よりも後ろ向きで、自然保護意識と関係があるかもしれない
- ・ ゆったりと過ごせることをお勧めする人も観光客が増えることには後ろ向きである

八幡平市に多くの観光客が訪れることに関する評価（7点満点中）



八幡平市の観光のイメージ

八幡平市に多くの観光客が訪れることに関する評価（7点満点中）



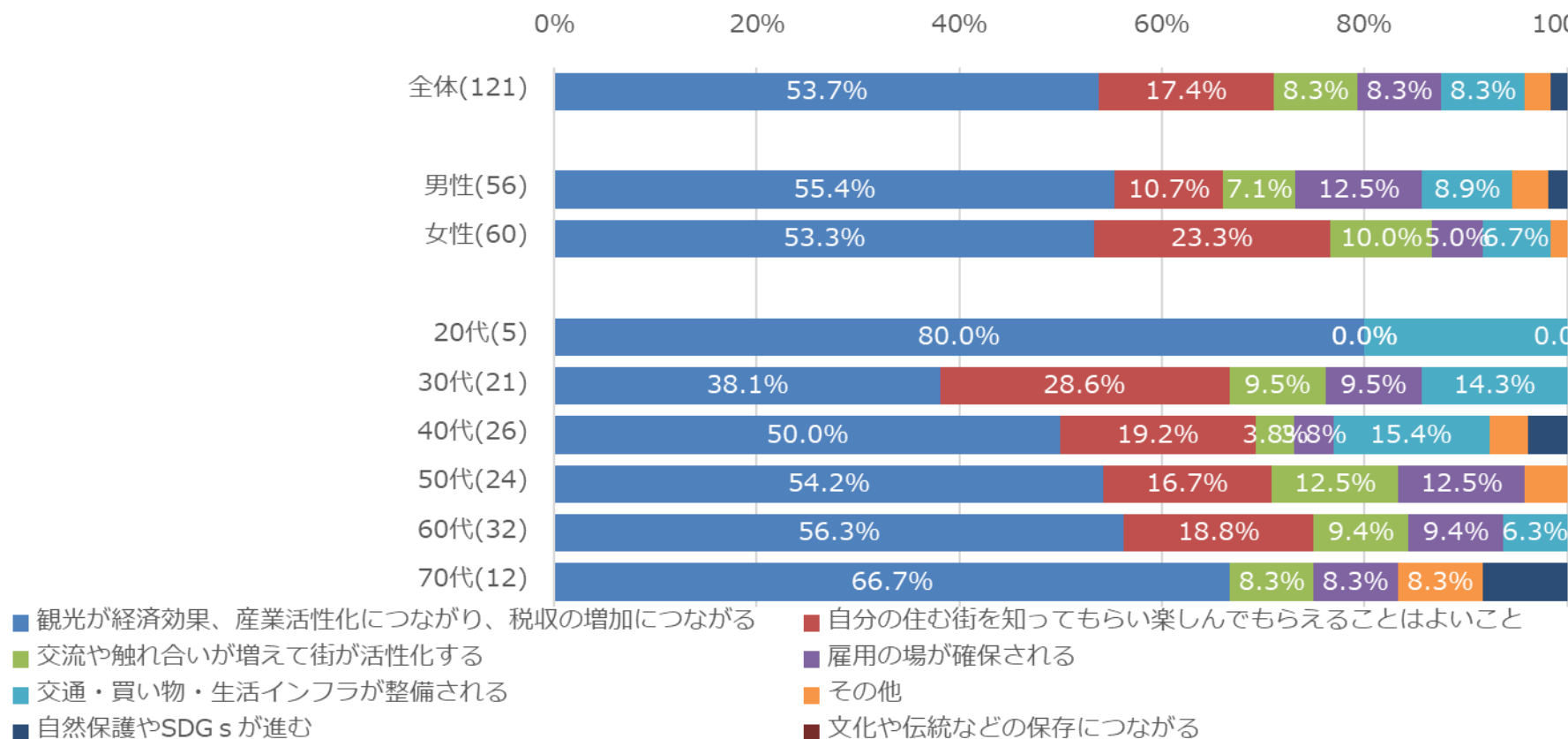
知り合いにお勧める八幡平の観光のポイント

5.八幡平に多くの観光客が訪れることに対する評価の理由

(1) 性別、年齢別

- 八幡平に観光客が多く訪れることを評価する理由として、もっとも多いのは経済効果/税収で、次いで、自分の町を楽しんでもらうことはよいことが続き、街の活性化、雇用の確保、インフラ整備が続く
- 女性は自分の住む街を知ってもらい楽しんでもらえることはよいことが多い
- 年齢が上がるにつれて経済効果を重視する傾向があり、30代は楽しんでもらえることはよいことが多い。また30代、40代はインフラ整備への期待も多い

八幡平市に多くの観光客が訪れることを評価する理由

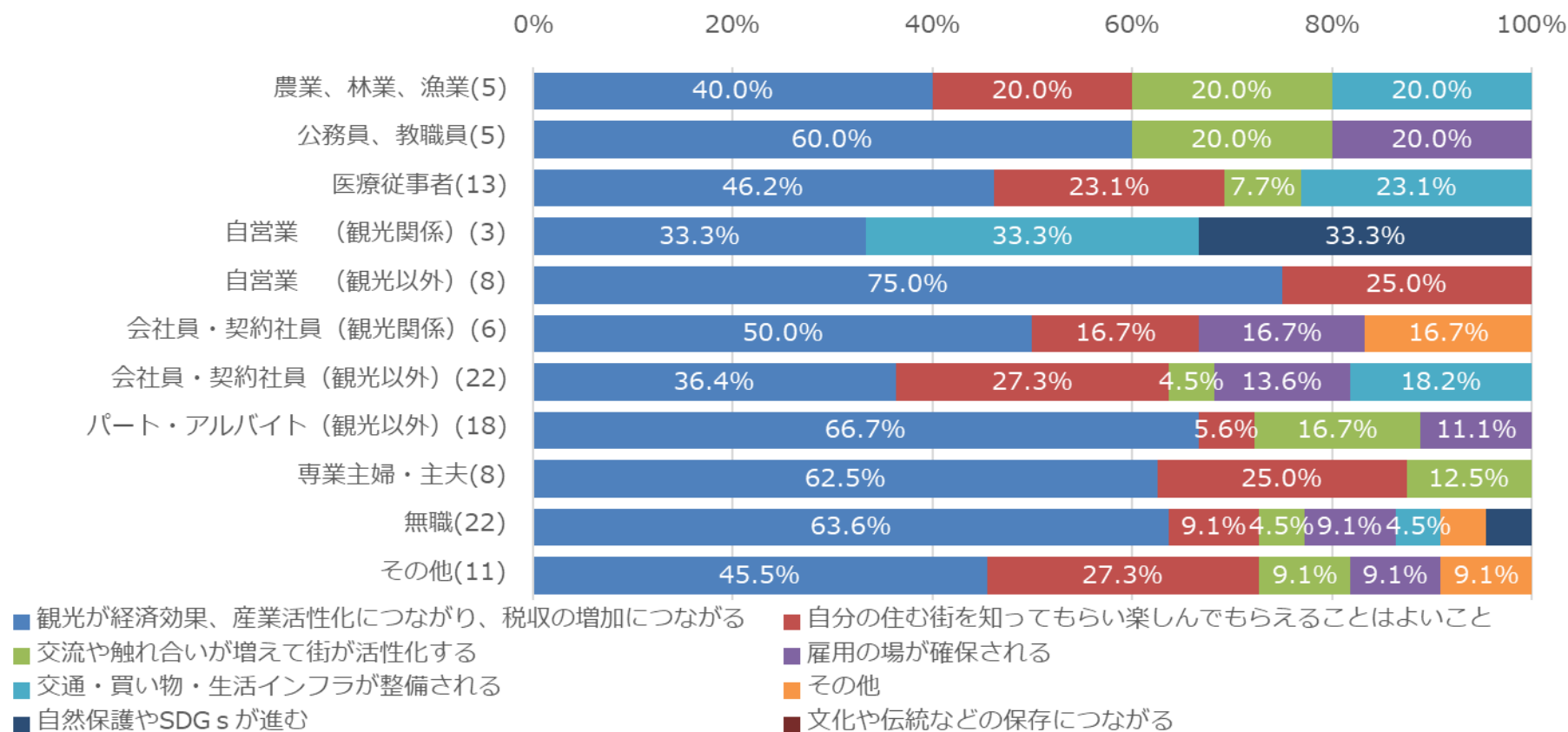


5.八幡平に多くの観光客が訪れることに対する評価の理由

(2) 職業別

- 観光客が多くなることを評価する理由として、観光以外の自営業、観光以外のパートアルバイト、無職、専業主婦などが経済効果に対する期待が多い

八幡平市に多くの観光客が訪れることを評価する理由

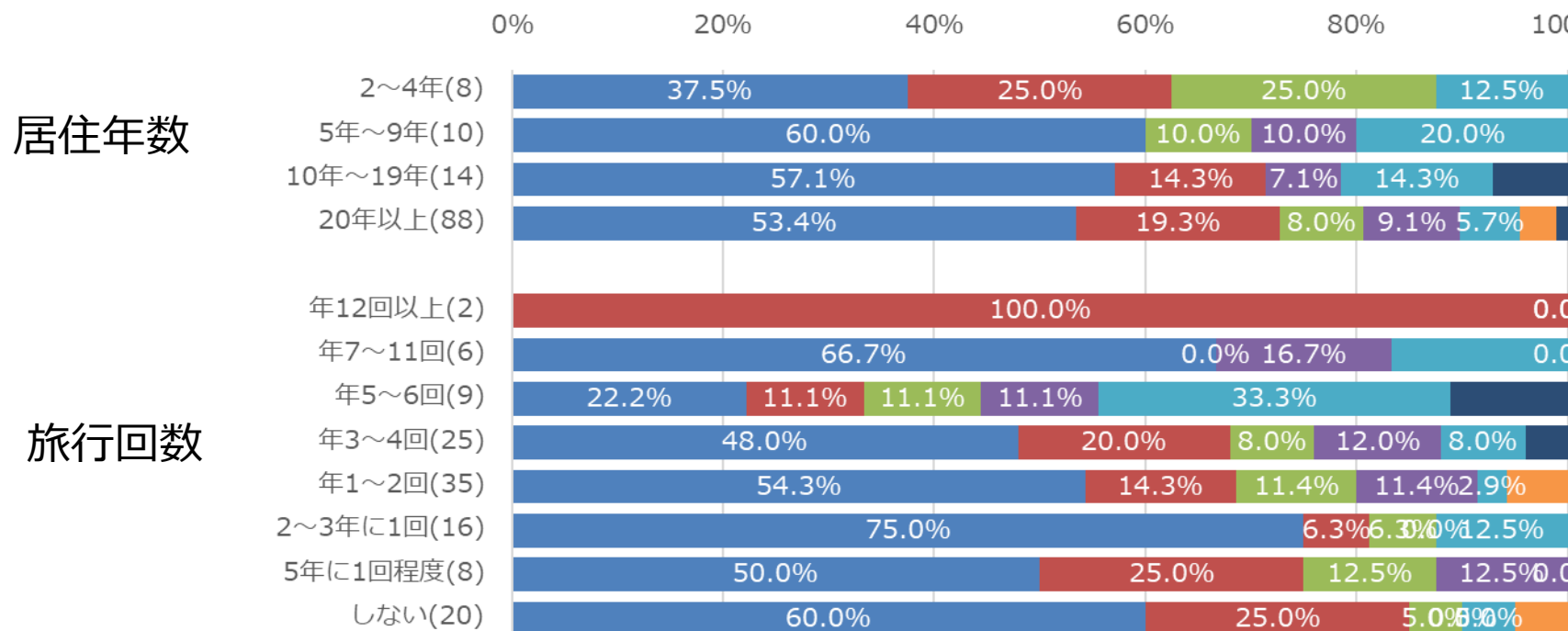


5.八幡平に多くの観光客が訪れることに対する評価の理由

(3) 居住年数、旅行回数別

- 観光客が多くなることを評価する理由として、観光以外の自営業、観光以外のパートアルバイト、無職、専業主婦などが経済効果に対する期待が多い
- 居住年数が長くなるほど経済効果に対する期待が下がり、単純に自分の街を知ってもらえることに喜びを感じている
- 旅行回数との相関はあまり見られない

八幡平市に多くの観光客が訪れることを評価する理由



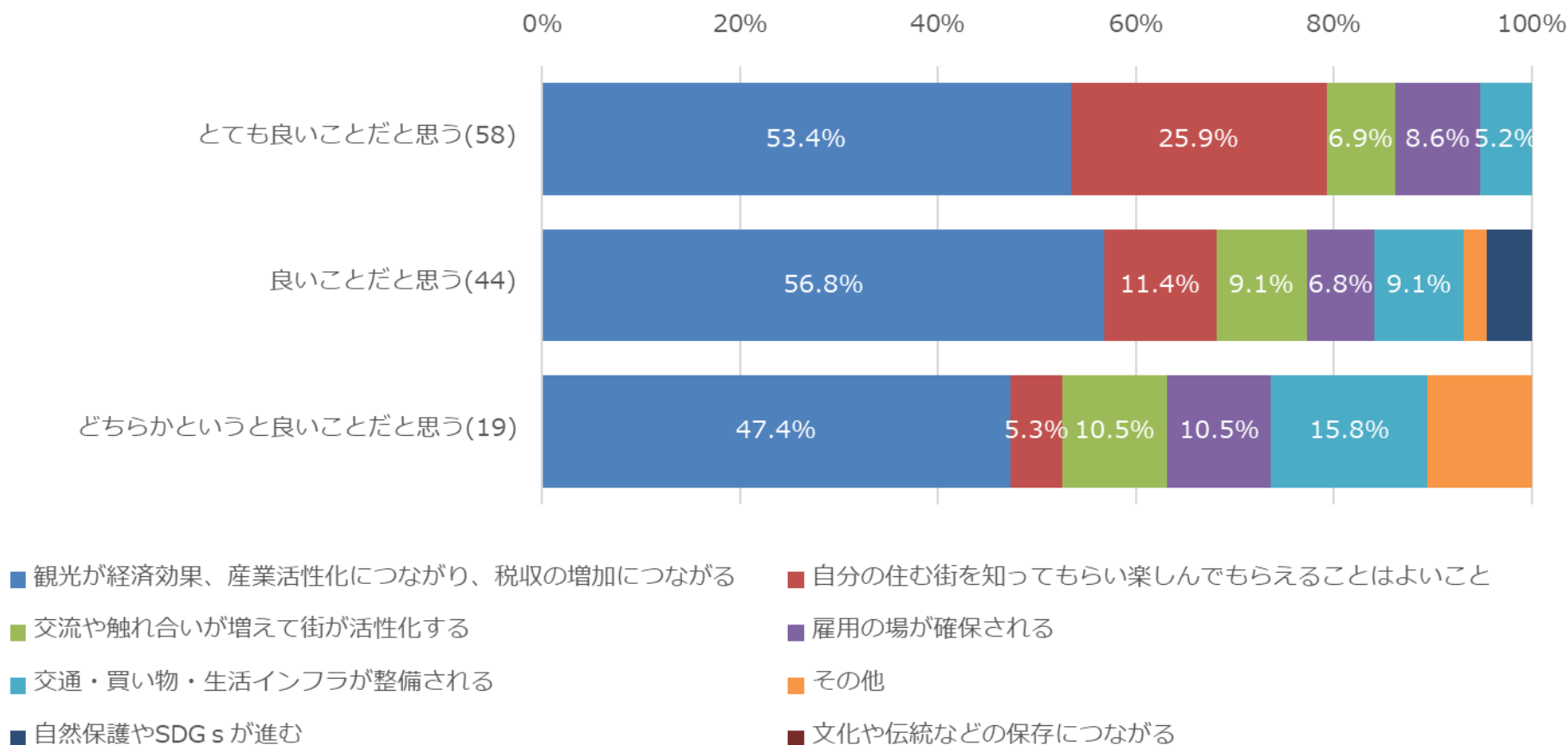
- 観光が経済効果、産業活性化につながり、税収の増加につながる
- 交流や触れ合いが増えて街が活性化する
- 交通・買い物・生活インフラが整備される
- 自然保護やSDG sが進む
- 自分の住む街を知ってもらい楽しんでもらえることはよいこと
- 雇用の場が確保される
- その他
- 文化や伝統などの保存につながる

5.八幡平に多くの観光客が訪れることに対する評価の理由

(5) 評価別

- 観光客が多くなることを評価する理由を評価基準別に分析した
- 観光客が増えることについて「とても良いことだと思う」人は、基本的には経済効果を重視するが、「良いことだと思う」人よりも自分の住む街を知ってもらい楽しんでもらえることはよいことと考えている人の割合が高い
- 「どちらかというとも良いことだと思う」のやや消極的な人は他の選択肢よりも経済効果があると思っている人の割合が少ない
- 経済効果を実感したりするとより前向きに考える人が増えるかもしれない

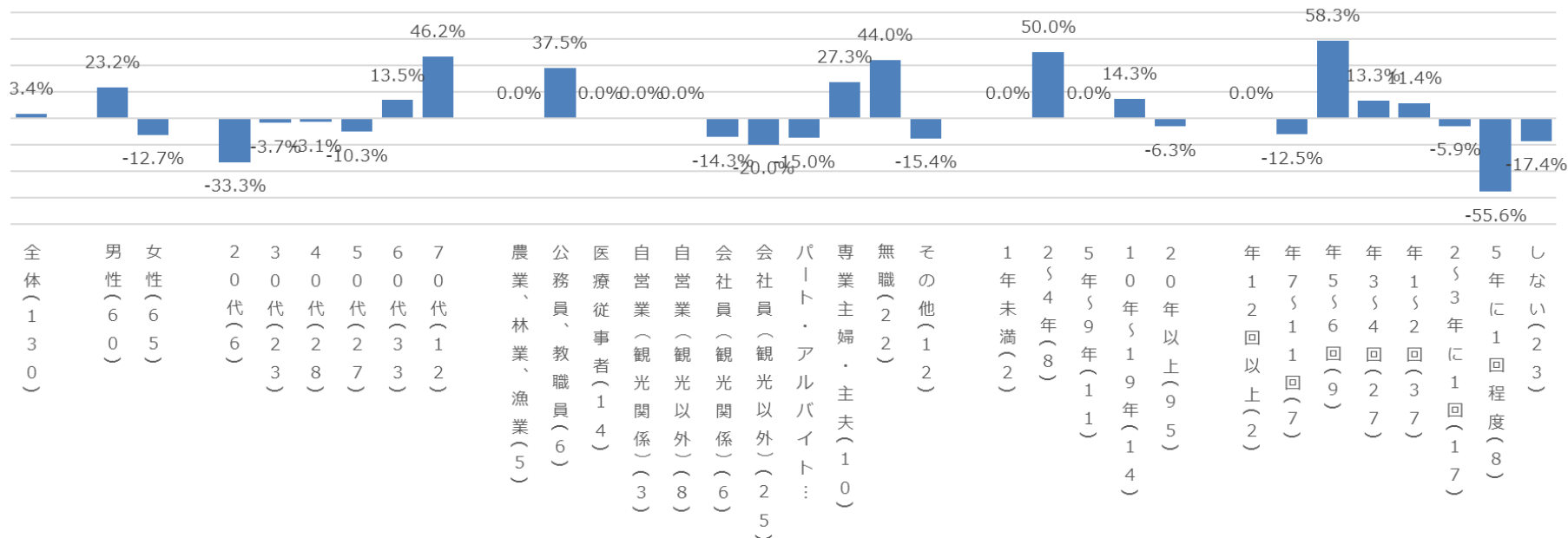
八幡平市に多くの観光客が訪れることに関する評価とその理由



6.八幡平の観光について知人に対する推薦意向 (1) 性別、年齢、職業、居住年数、旅行回数別

- ・ 市外の友人等に八幡平をお勧めする度合いを10点満点で評価してもらい、NPS（Net Promoter Score、推薦意向）を評価した
（9点以上の得点をつけた人の割合から6以下の評価の人の割合を引いた指標をNPS（Net Promoter Score）という）
- ・ 全体のNPSとしては3.4%であり、決して高くはなく、八幡平市民はあまり八幡平の観光を推薦したくない
- ・ 男性のほうが女性よりも推薦意向が強く、高齢者のほうが若年層よりも高い。
- ・ 職業別には専業主婦や無職の評価が高く、居住年数が2～4年くらいが評価が高い
- ・ 年5～6回程度旅行する人の八幡平の評価が高く、旅行頻度が低くなると評価が低くなる。ただし、年7回以上の本当に旅慣れた人は評価がさが

市外のご友人等に対する八幡平市への観光の推薦度（NPS = 10点満点で9点以上の割合 - 6点以下の割合）



居住年数

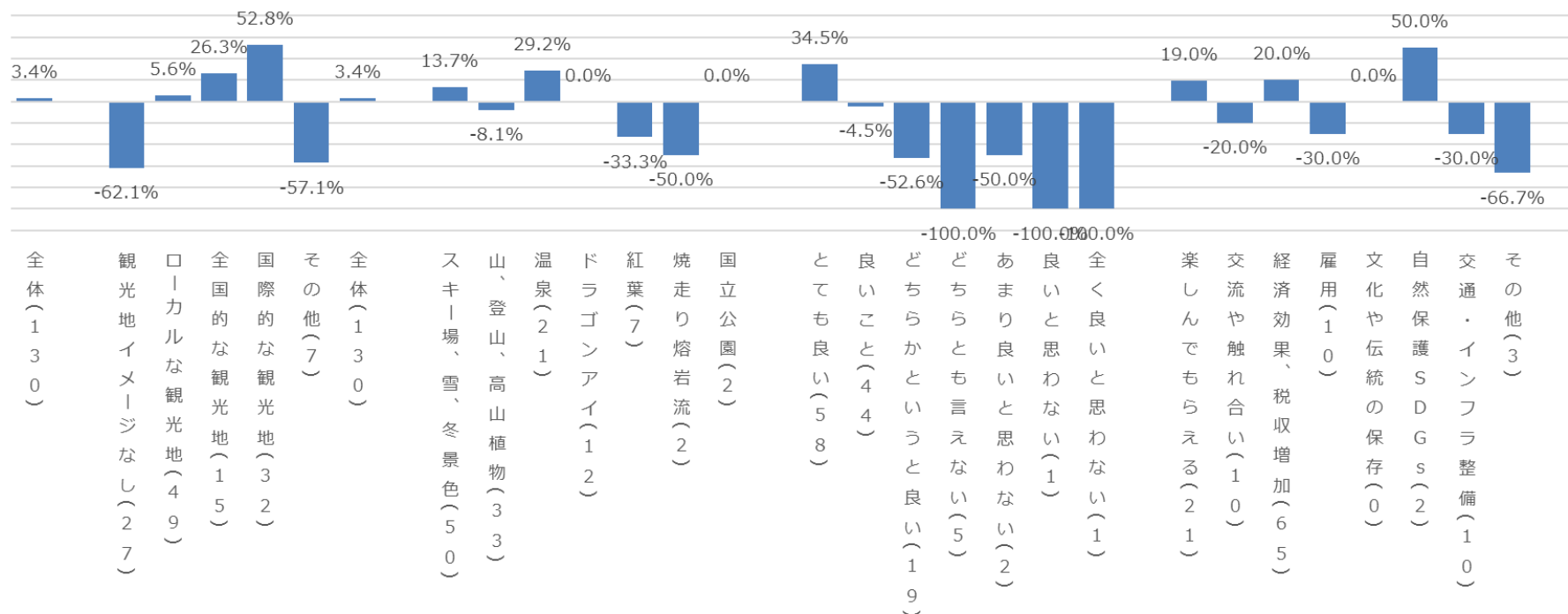
旅行回数

6.八幡平の観光について知人に対する推薦意向

(2) 観光地のイメージ、観光客が増えることの評価、推薦意向

- 市外の友人等に八幡平をお勧めする度合いを10点満点で評価してもらい、NPS（Net Promoter Score、推薦意向）を評価した（9点以上の得点をつけた人の割合から6以下の評価の人の割合を引いた指標をNPS（Net Promoter Score）という）
- 八幡平の観光イメージがローカルな観光地、全国的な観光地、国際的な観光地と認識が高まると共に推薦意向が伸びる
- 観光資源として温泉をイメージする人が最も推薦度が高く、次いでスキーと続く。サンプルは少ないが焼走り溶岩流や紅葉のイメージの人の推薦度は高くない
- サンプルは少ないが、観光振興が自然保護やSDGsにつながると認識する人の推薦度は高く、次いで経済効果や、単純に楽しんでもらえることがうれしいと考える人ほど推薦度が高い。

市外のご友人等に対する八幡平市への観光の推薦度（NPS = 10点満点で9点以上の割合 - 6点以下の割合）

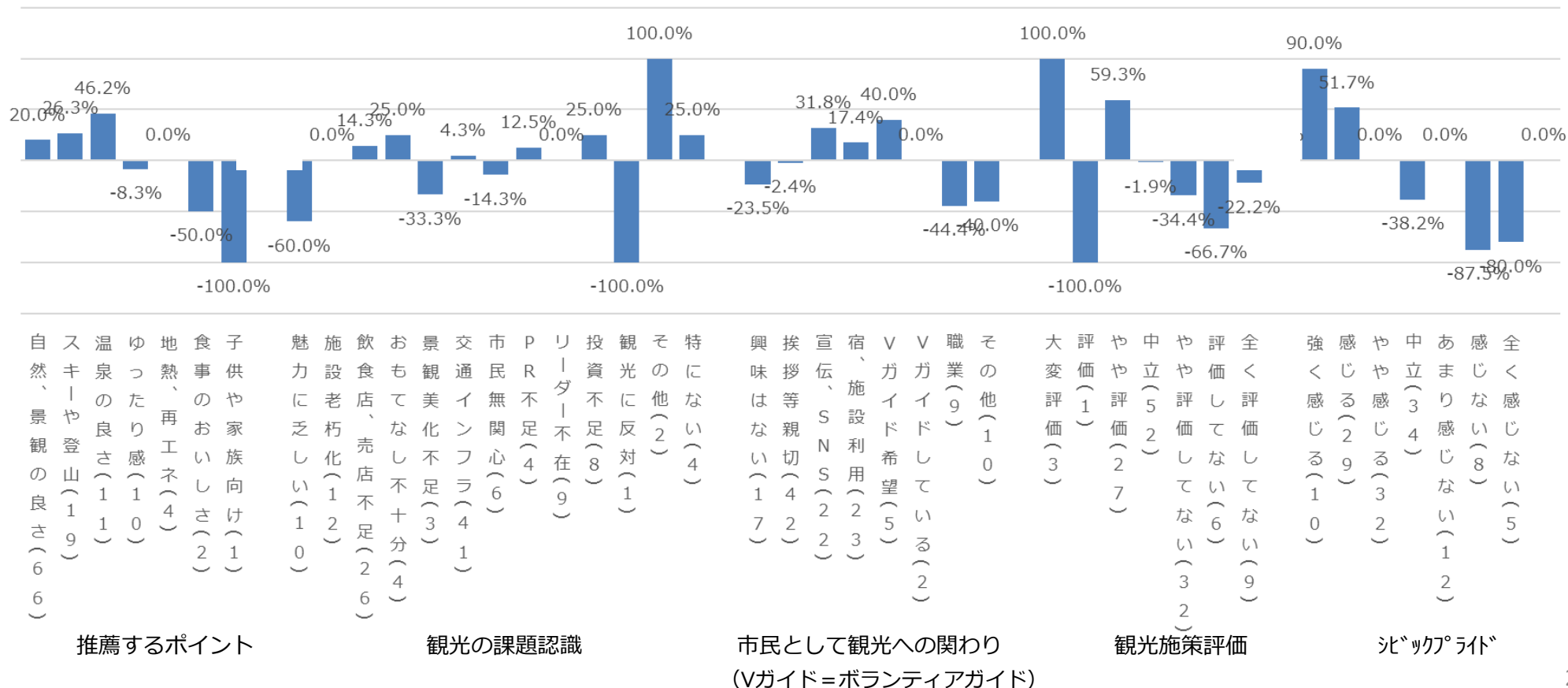


6.八幡平の観光について知人に対する推薦意向

(3) 推薦度、推薦ポイント、課題認識、市民としての関わり、シビックプライド

- ・ 推薦度の根拠別では温泉の良さを挙げる人の推薦度が最も高く、スキーや登山、自然・景観の良さが続く
- ・ 課題認識として、観光地としての魅力に乏しいと感じている人や景観美化の取り組みが不足していると認識している人の推薦度は低くなる傾向があり、おもてなし不十分とを感じる人は比較的推薦度は高い
- ・ ボランティアガイドをしてみたい人や積極的にPRしてくれようとする人は推薦度も高い。観光の仕事の人の推薦度が低い
- ・ 基本的には観光施策評価が高いほど、観光地の推薦意向も高く、評価が低いほど推薦度が低い
- ・ シビックプライドについても、誇りを強く持つほど推薦意向が高く、誇りを感じない人ほど推薦度が低い

市外のご友人等に対する八幡平市への観光の推薦度（NPS = 10点満点で9点以上の割合 - 6点以下の割合）



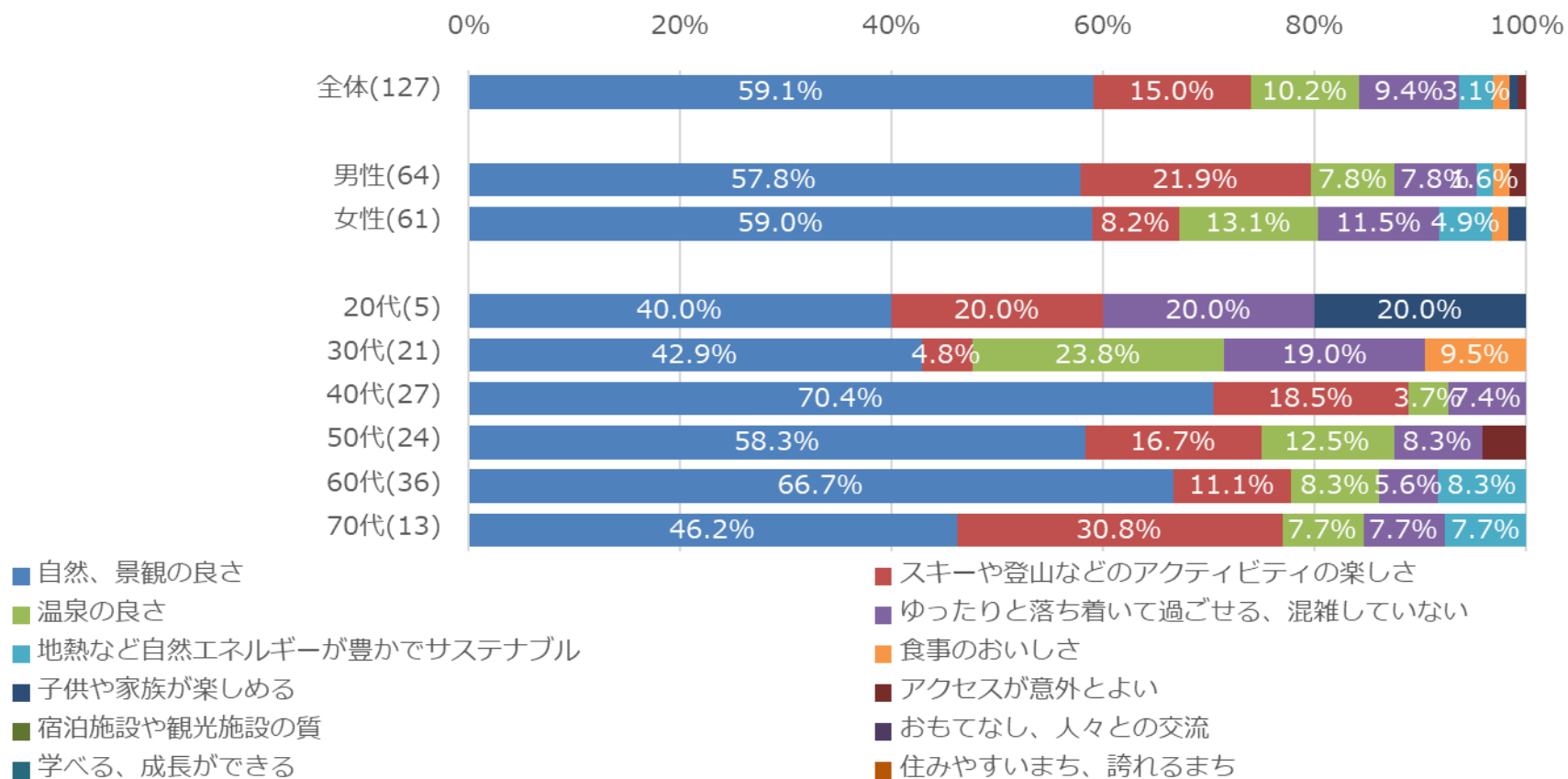
6.八幡平の観光の良いところ、おすすめできる点 年齢別

(1) 性別、年



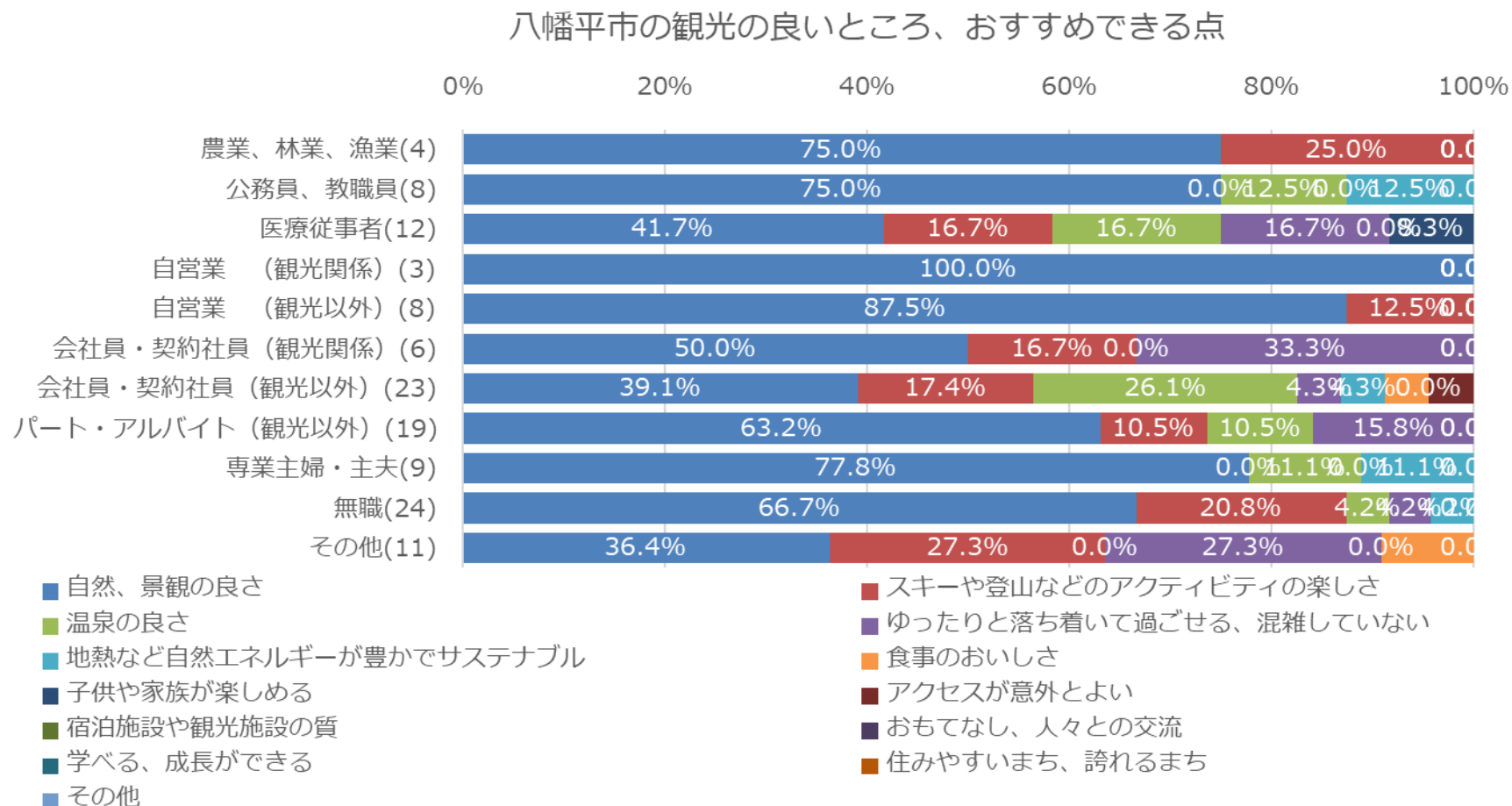
- 八幡平の観光の良いところ、おすすめできる点を市民に聞いたところ、半数以上が「自然、景観の良さ」を挙げ、次いで「スキーや登山などのアクティビティの楽しさ」3番目には「温泉の良さ」、「ゆったりと落ち着いて過ごせる、混雑していない」が続いた
- 男性はアクティビティの割合が高く、女性は温泉の割合が高い
- 30代は温泉やゆったり過ごせることを挙げる割合が高く、40代～60代は自然景観の良さを挙げ、70代がアクティビティの割合が高い

八幡平市の観光の良いところ、おすすめできる点



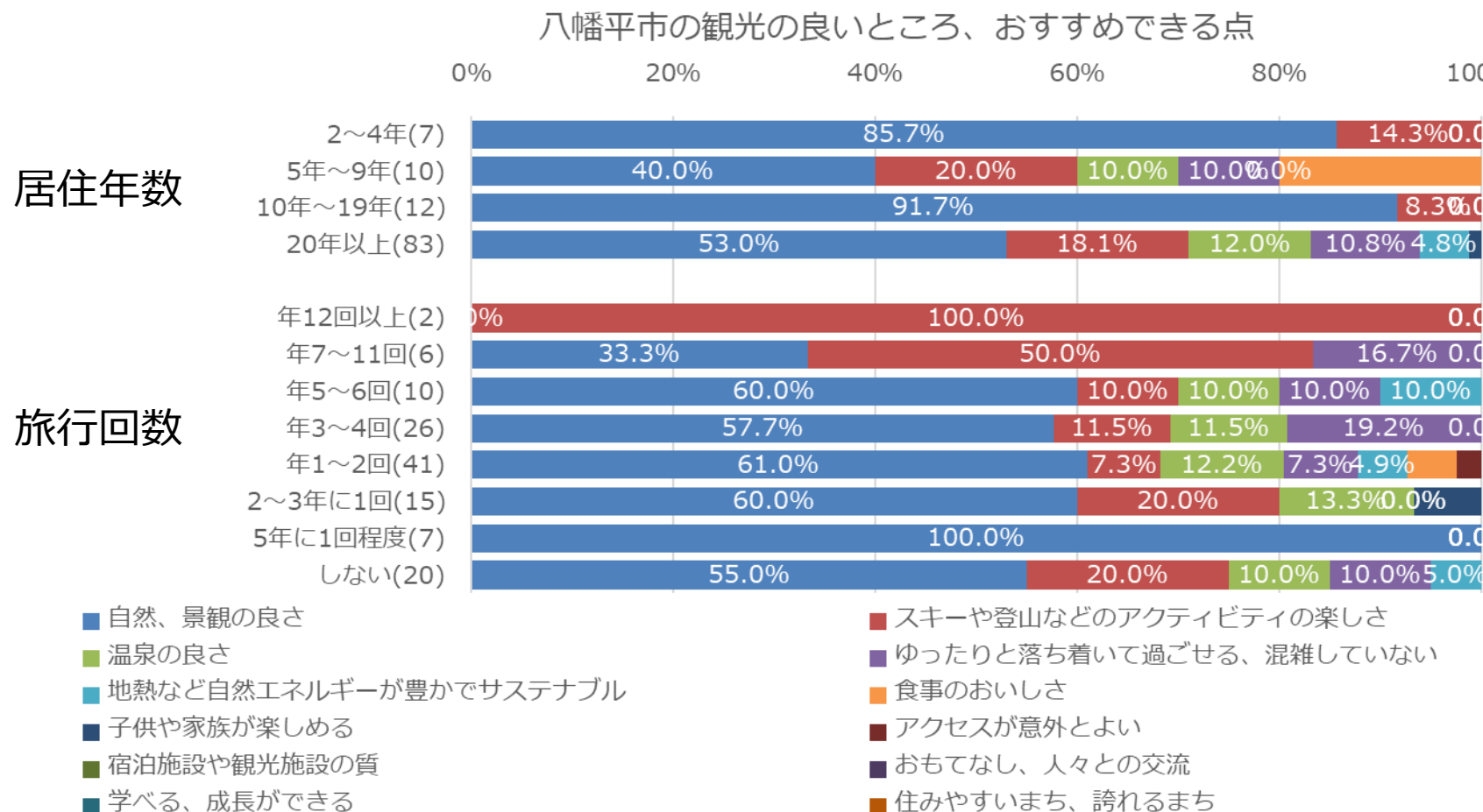
6.八幡平の観光の良いところ、おすすめできる点（2）職業別

- 職業別では特に大きな傾向があるわけではない



6.八幡平の観光の良いところ、おすすめできる点 (3) 居住年数、旅行回数別

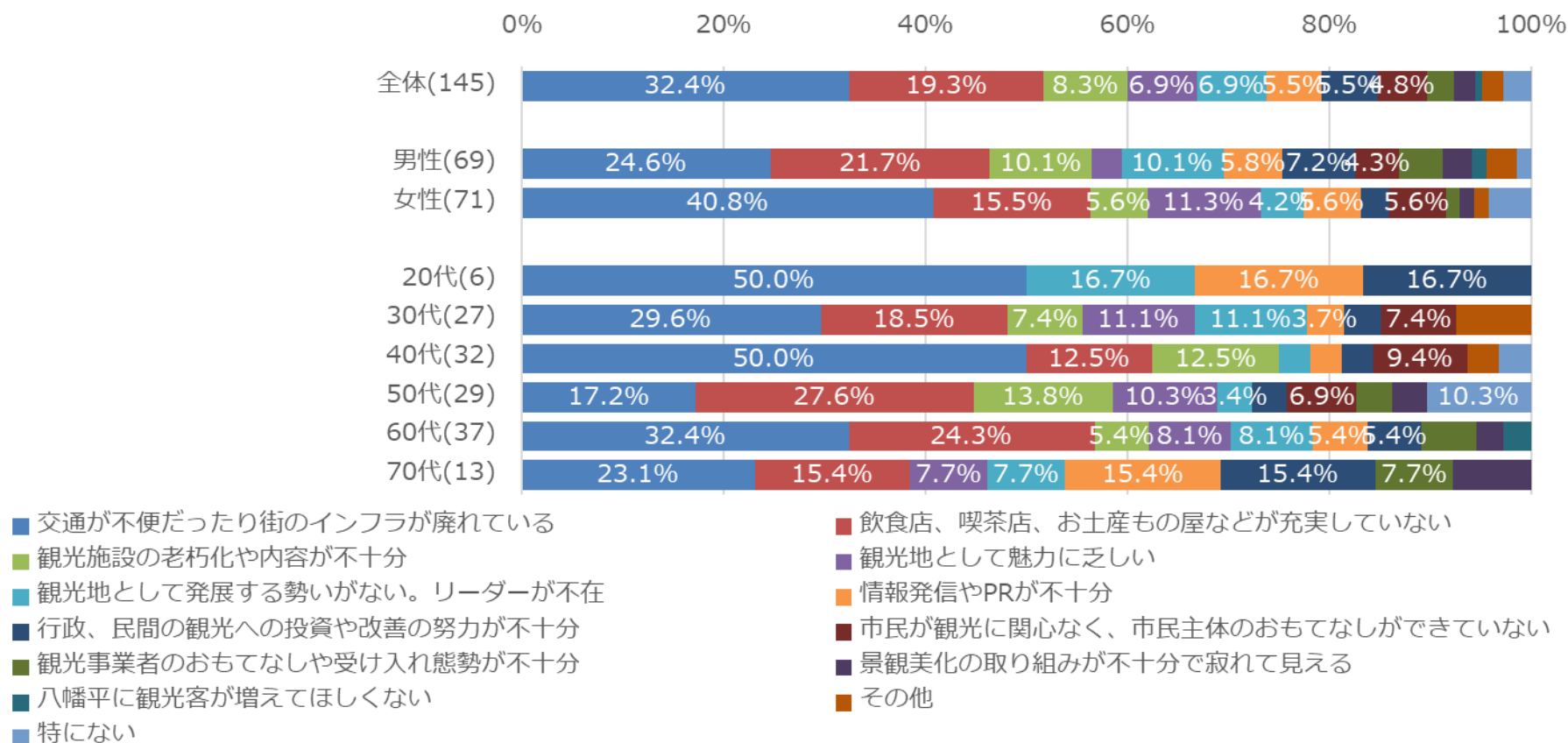
- 居住年数が2～4年と10年～19年は自然、景観の良さが圧倒的に多いが、5年～9年目は意見が割れ、特に食事のおいしさを挙げる人が多いのが特徴的
- 毎月旅行に行っている人はアクティビティを推していて、年7回以上の人も半数がアクティビティ推し。年5回以下では自然、景観の良さを推す人が半分になる。



7. 八幡平の観光をお勧めしない理由、課題（1）性別、年齢別

- 全体としては交通やインフラに対する課題認識が多く、次いで、飲食店や店舗の不足、観光施設の老朽化などを挙げる人が多い
- 男性よりも女性のほうが交通インフラに対する課題認識が強い
- 20代、40代が交通インフラの課題意識が強く、30代、50代、60代は比較的飲食店や店舗の課題意識が強い

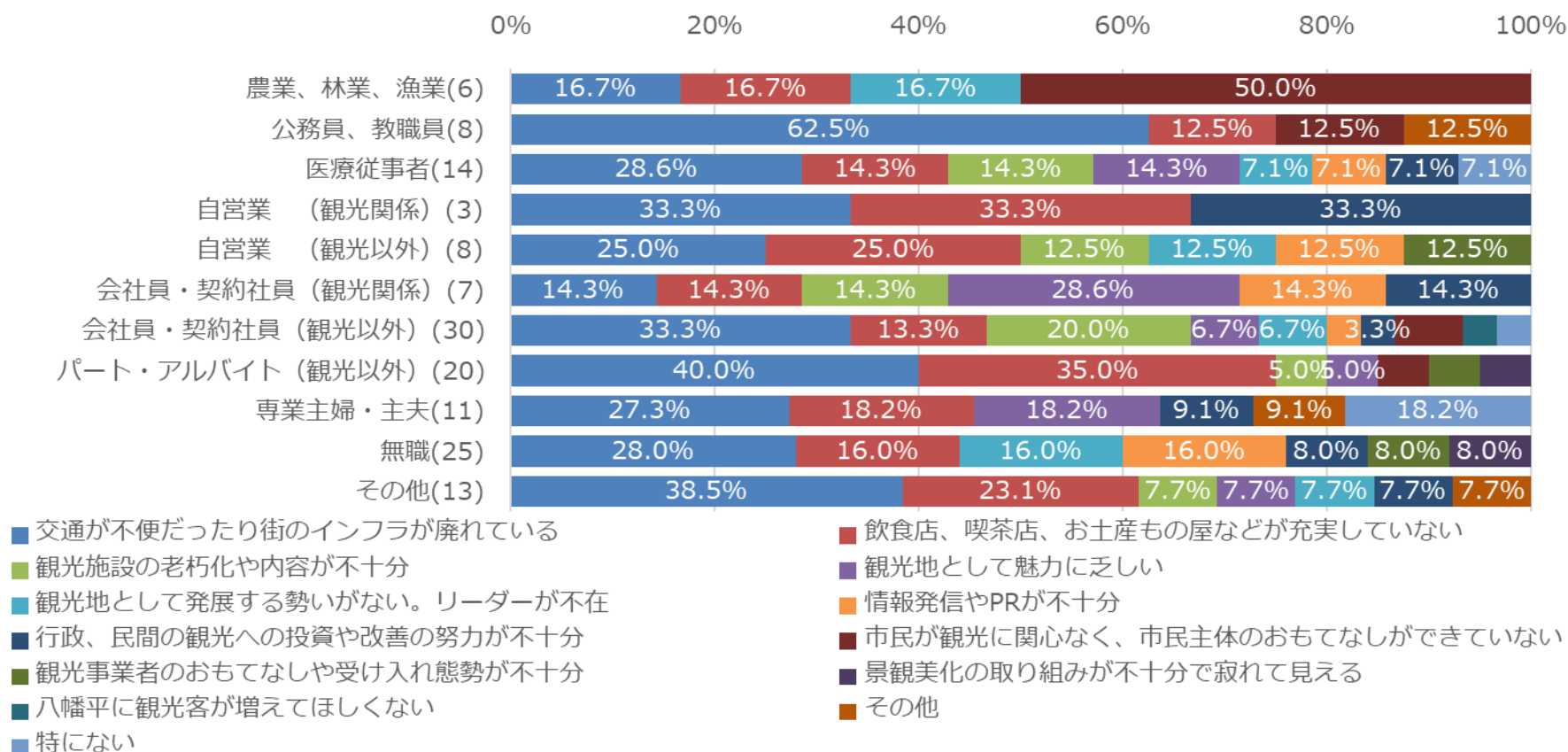
八幡平市の観光について市外のご友人等にお勧めできない点、課題



7. 八幡平の観光をお勧めしない理由、課題（2）性別、年齢別

- 農林漁業者の半数は市民の無関心が観光をお勧めしない理由となっている
- 公務員や教職員は交通インフラを課題意識を持っている
- 医療従事者は多様な意見を持っている
- 観光関係の自営業者では交通インフラ、飲食店の不足、投資不足を挙げる人がいた
- 観光関係の会社員では観光地への魅力が乏しいという意見が多かった

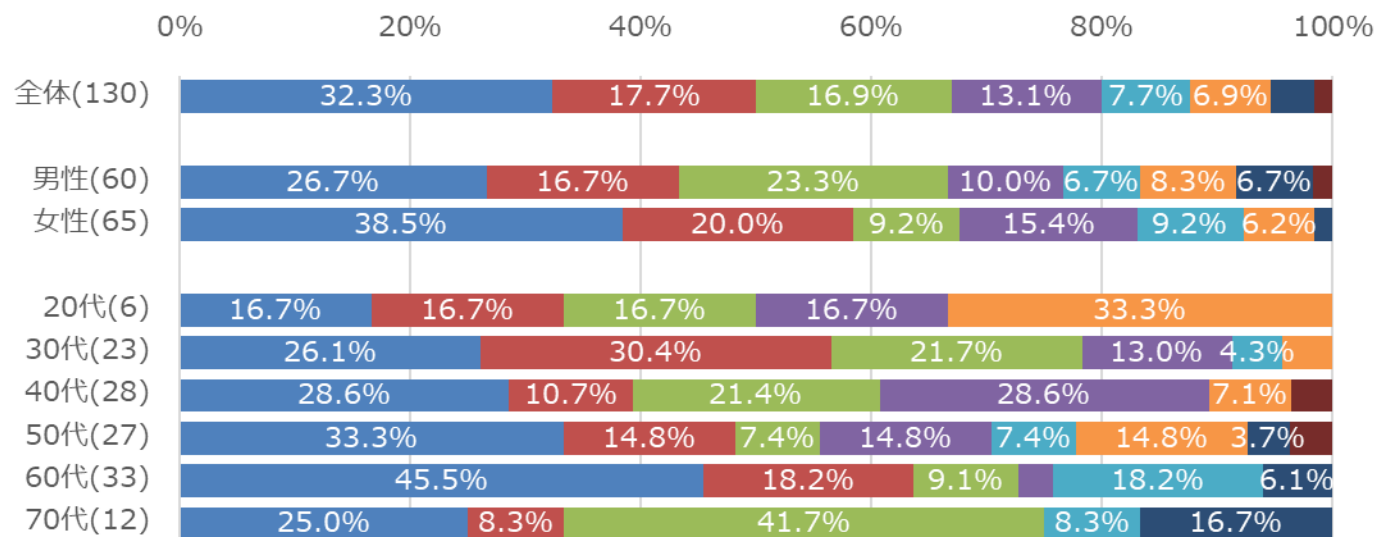
八幡平市の観光について市外のご友人等にお勧めできない点、課題



8. 市民による観光おもてなしの参加意向（1）性別、年齢別

- 全体では「観光客に挨拶するなど親切に接したい」が多く、次いで「観光施設や宿を利用して応援」、「知人友人にSNSで宣伝」などが続く
- ボランティアガイドなどに参加したい人は3.8%で、すでにボランティアガイドなどしている人は1.5%とごく少数にとどまる
- 男性のほうが女性よりも宣伝する意向が強く、年代では30代や70代も宣伝する意向が強い
- 今回は20代に職業として観光にかかわっている人が多かった
- 40代は観光への参加意向がもっと少なく、興味がない人が多かった

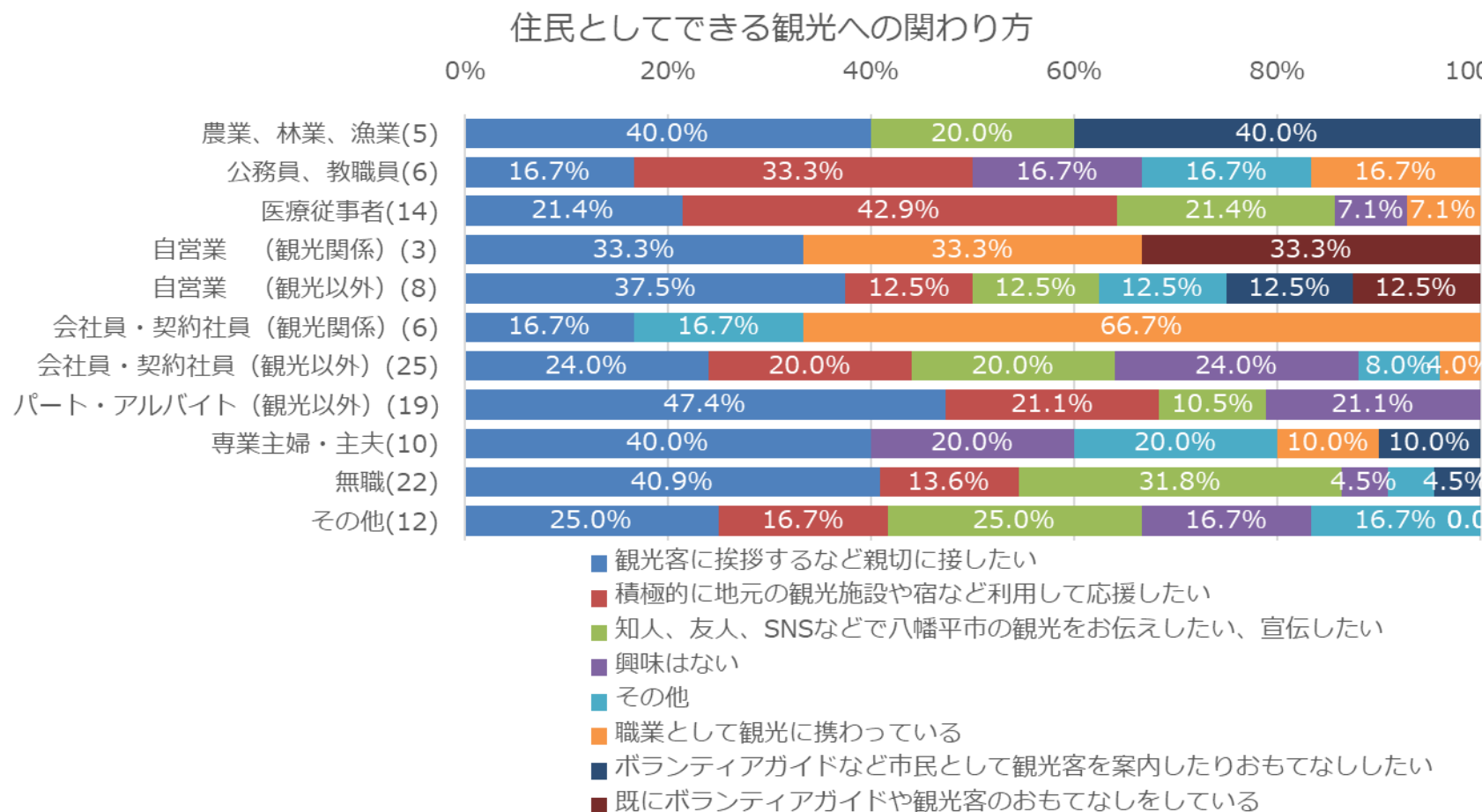
住民としてできる観光への関わり方



- 観光客に挨拶するなど親切に接したい
- 積極的に地元の観光施設や宿など利用して応援したい
- 知人、友人、SNSなどで八幡平市の観光をお伝えしたい、宣伝したい
- 興味はない
- その他
- 職業として観光に携わっている
- ボランティアガイドなど市民として観光客を案内したりおもてなししたい
- 既にボランティアガイドや観光客のおもてなしをしている

8. 市民による観光おもてなしの参加意向（2）職業別

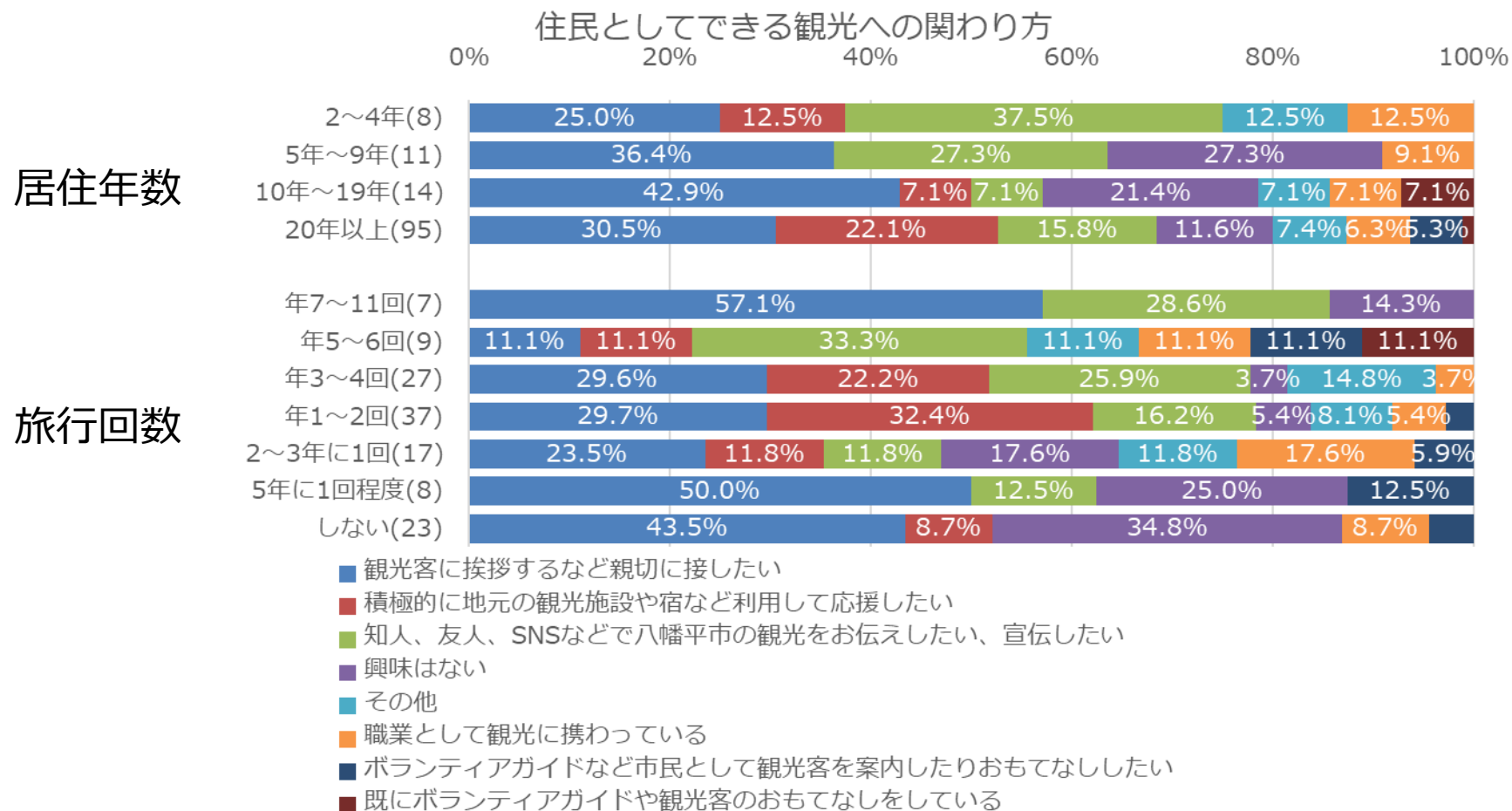
- ・ 農林漁業関係者ではボランティアガイドとして観光客を案内したりおもてなししたい人が多い
- ・ 公務員、教職員、医療従事者などは宿や観光施設利用などで応援する意向が強い
- ・ 自営業者は挨拶などが多いほか、仕事やボランティアで関わっている人も多い
- ・ 観光以外の会社員やパートアルバイトは興味がない人も多い
- ・ 専業主婦や無職は宿や観光施設の利用意向が比較的少なく、無職は宣伝する意向は強い



8. 市民による観光おもてなしの参加意向

(3) 居住年数、旅行回数別

- ・ 居住年数が浅い新しい住民ほど宣伝意向が強い。住んでまだ浅いので八幡平が新鮮で魅力を伝えたいということかもしれない
- ・ 5年目から20年くらいは興味がない層も多く、長く住むと関心がなくなるのかもしれない。20年以上住むとやや無関心層は減る
- ・ 旅行回数が年3回以上になると宣伝意向が強くなる。年7回以上の旅に積極的な層は挨拶など親切にすることに積極的であるが、そういうのが自身としてもうれしいのかもしれない
- ・ 旅行回数が少なくなると興味がない無関心層が増えていく

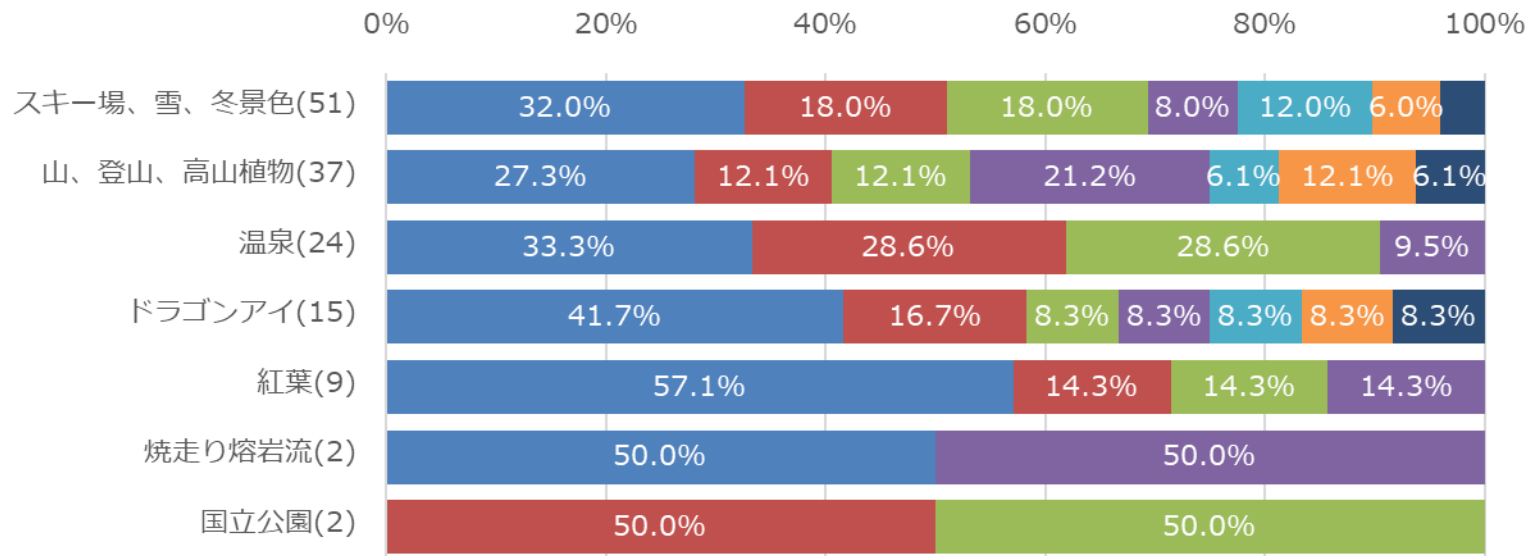


8. 市民による観光おもてなしの参加意向

(4) 思いつく観光資源別

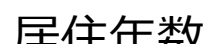
- ・ 国立公園や温泉が八幡平の観光資源だと思っている人は宣伝をして貢献したいという意識がやや強く、比較的積極的
- ・ 山や登山、焼き走り溶岩流が思いつく層は比較的興味がない無関心層が多い

住民としてできる観光への関わり方（思いつく八幡平の観光資源別）



- 観光客に挨拶するなど親切に接したい
- 積極的に地元の観光施設や宿など利用して応援したい
- 知人、友人、SNSなどで八幡平市の観光をお伝えしたい、宣伝したい
- 興味はない
- その他
- 職業として観光に携わっている
- ボランティアガイドなど市民として観光客を案内したりおもてなししたい

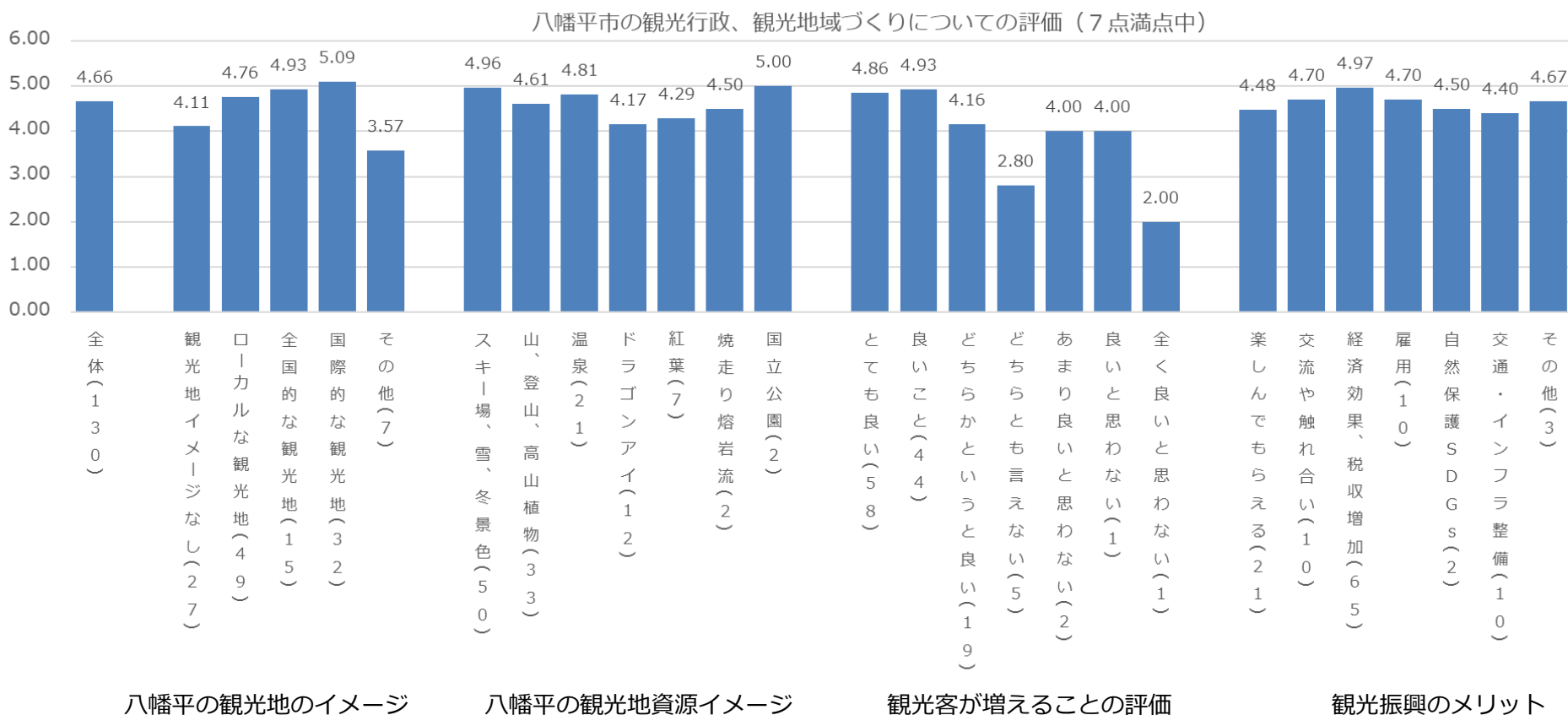
- 八幡平市の観光行政、観光地域づくりについての評価（7点満点中）



9. 行政の観光政策に対する評価

(2) 観光地のイメージ、観光客が増えることの評価、推薦意向

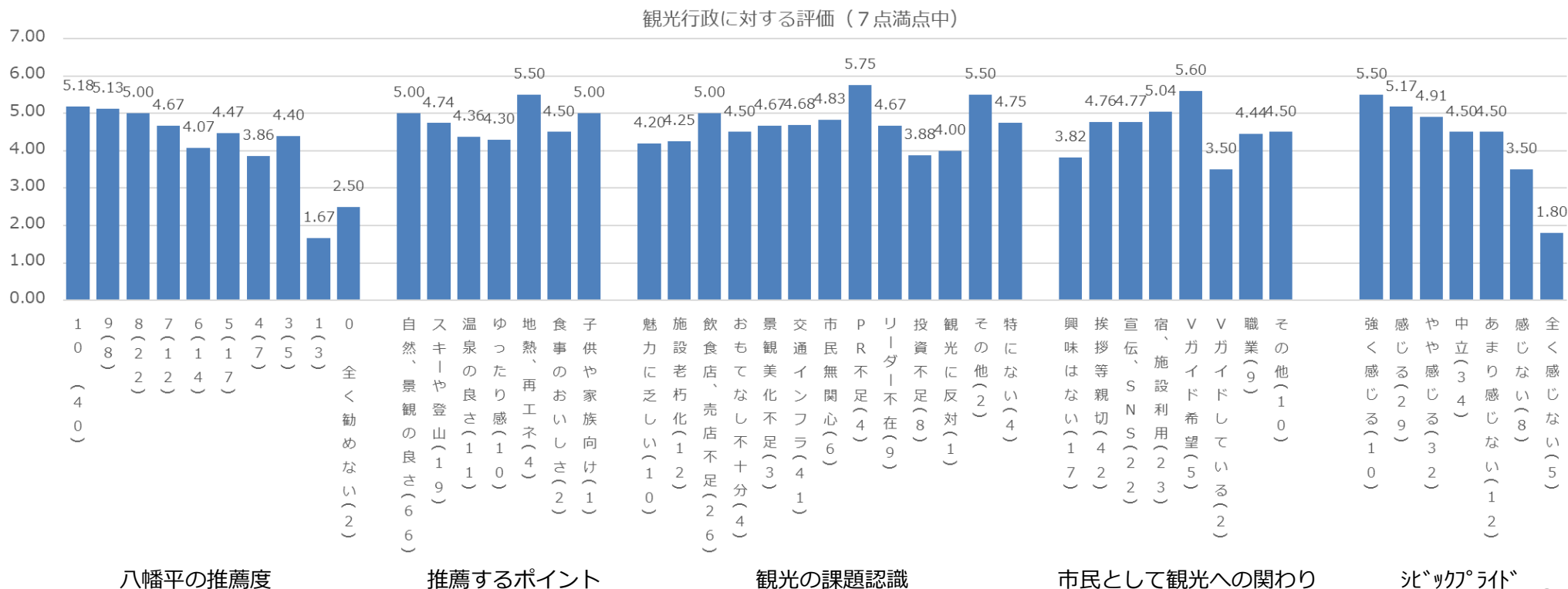
- 八幡平が全国の観光地、国際的な観光地と高いプレゼンスと認知するほど行政評価が高くなる
- 観光資源として国立公園、スキー場、温泉などを認識する人ほど行政評価が高く、ドラゴンアイをイメージする人ほど評価が低い。新しい観光資源をイメージする人は、それらの新しい観光資源のPRや扱いに問題意識を持っているのかもしれない。
- 基本的には観光客が増えることをポジティブに捉えている人ほど行政の評価も高い
- 観光振興のメリットとして経済効果や税収の増加を挙げる人ほど行政の評価も高く、自然保護や交通インフラが観光振興のメリットと考えている人は行政の評価が低い。より具体的な効果をイメージする人ほど、その通りに進まない状況で行政への評価が下がるのかもしれない



9. 行政の観光政策に対する評価

(3) 推薦度、推薦ポイント、課題認識、市民としての関わり、シビックプライド

- 観光地として八幡平を評価する人ほど行政の評価が高くなる傾向がある
- サンプルは少ないものの、八幡平の観光をお勧めする際に地熱や再生可能エネルギーを挙げるような人は行政の評価も高く、八幡平の観光の良さはゆったり過ごせることや温泉としている人の評価はやや低い
- 観光の課題を投資不足や魅力の不足や施設の老朽化と認識している人の行政への評価は低く、飲食店不足やPR不足と感じている人は行政の評価は低くない
- ボランティアガイドを希望する人や宿や施設を利用して貢献しようとしている人は行政の評価が低くない。一方でボランティアガイドを実践している人の行政評価は低い
- シビックプライドが高いほど行政の評価が高い

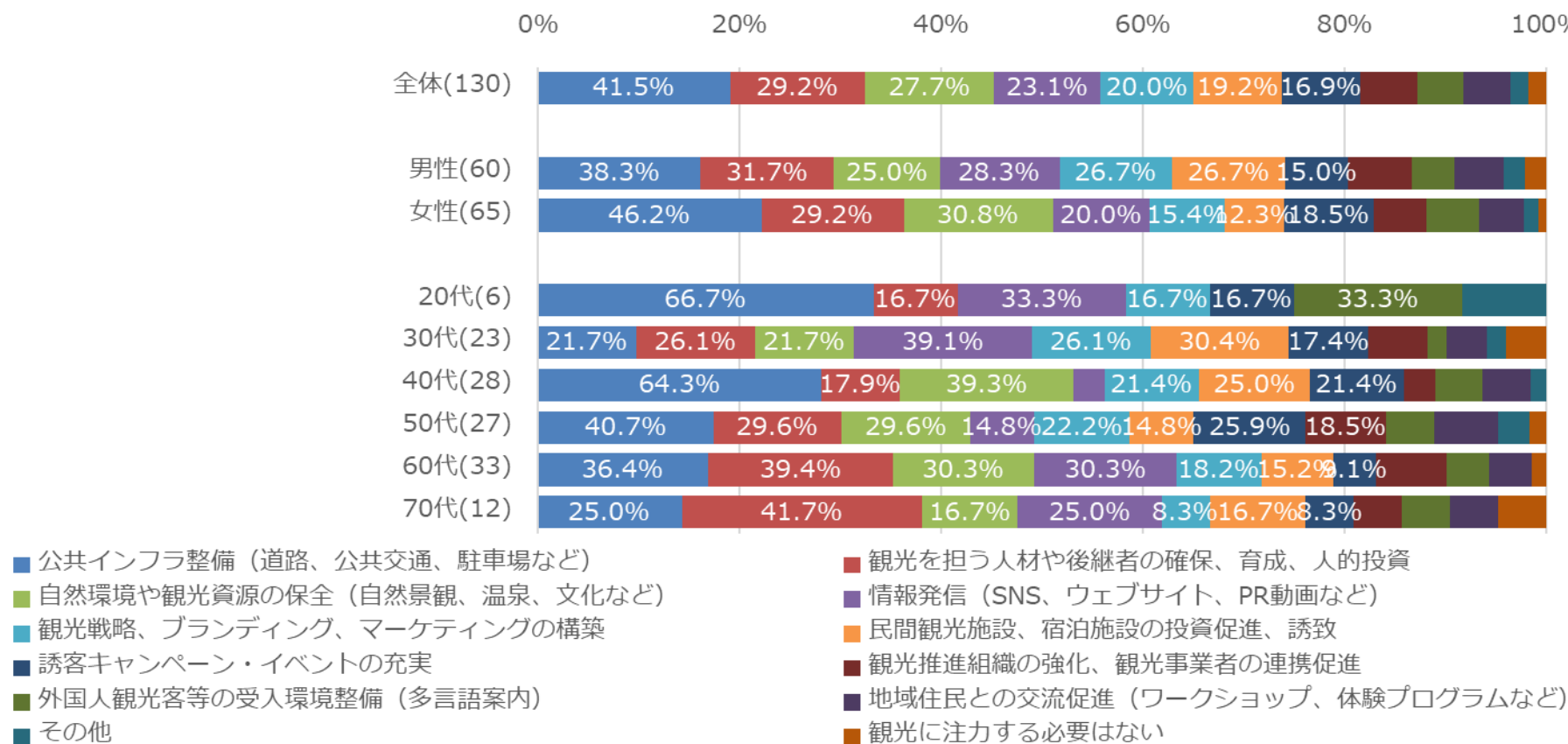


10. 観光行政、観光地域づくりで注力すべき分野

(1)男女、年齢別

- 全体として、公共インフラ整備が多く、人的投資、自然保全、情報発信、マーケティング、投資促進、誘客キャンペーン・イベントなど続くが、他の設問と比べても意見が分かれている
- 女性のほうが公共インフラ投資を求める割合が高く、男性は情報発信やマーケティングの充実を求めている
- 30代を除いて若いほど公共インフラ投資を求めており、40代以降で人的投資の認識が高まっていく

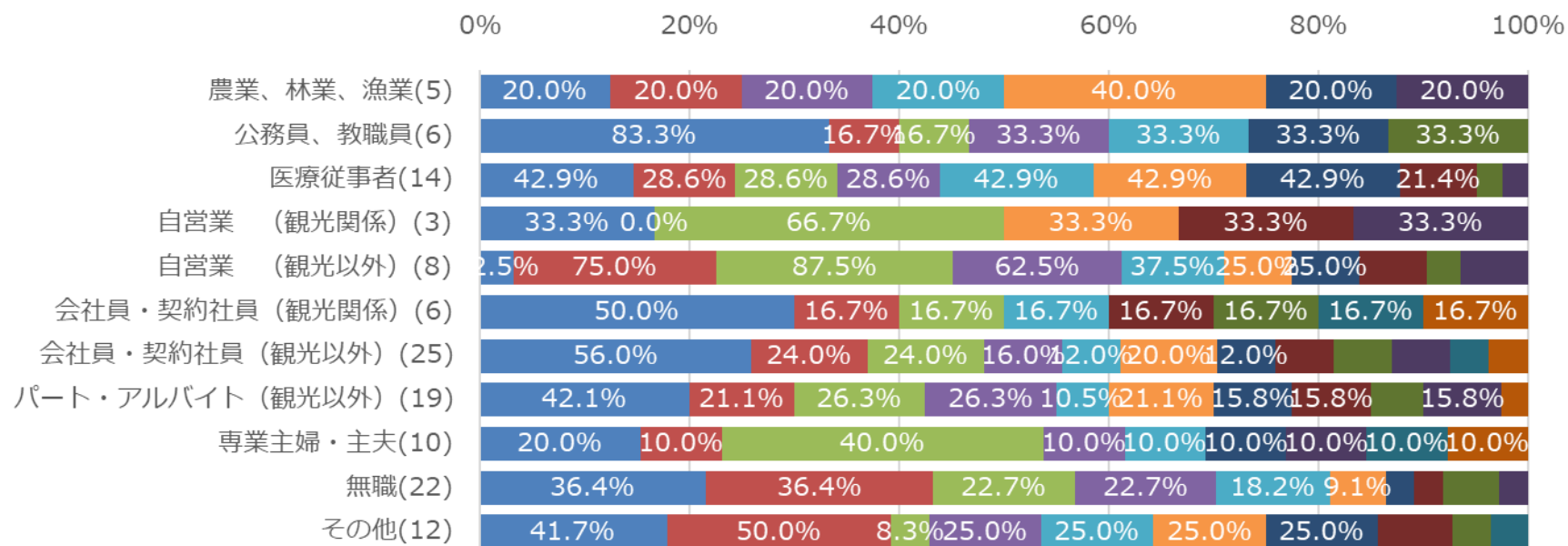
今後、八幡平の観光行政、観光地域づくりとして強く力を入れていくべき分野



10. 観光行政、観光地域づくりで注力すべき分野(2)職業別

- 農林漁業者は投資促進、公務員、教職員、会社員は公共投資、医療従事者は意見が割れ、自営業者と専業主婦は自然保全などを求めている傾向がある

今後、八幡平の観光行政、観光地域づくりとして強く力を入れていくべき分野



- 公共インフラ整備 (道路、公共交通、駐車場など)
- 自然環境や観光資源の保全 (自然景観、温泉、文化など)
- 観光戦略、ブランディング、マーケティングの構築
- 誘客キャンペーン・イベントの充実
- 外国人観光客等の受入環境整備 (多言語案内)

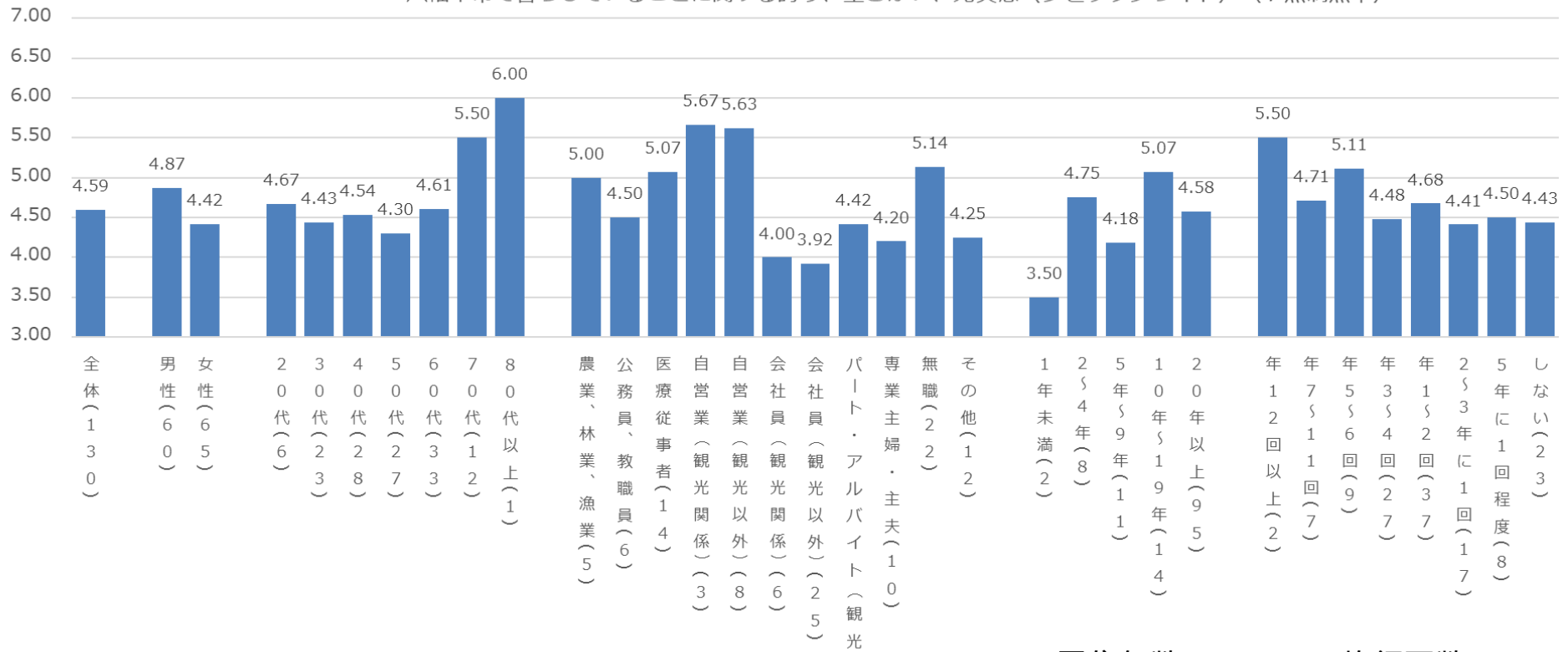
- 観光を担う人材や後継者の確保、育成、人的投資
- 情報発信 (SNS、ウェブサイト、PR動画など)
- 民間観光施設、宿泊施設の投資促進、誘致
- 観光推進組織の強化、観光事業者の連携促進
- 地域住民との交流促進 (ワークショップ、体験プログラムなど)

11. シビックプライドと観光

(1) 性別、年齢、職業、居住年数、旅行回数別

- 「八幡平市で暮らしていることに誇り、生きがい、充実感を感じていますか？」という問いについて、強く感じている（7点）、感じている（6点）、どちらかというと感じている（5点）、どちらとも言えない（4点）、どちらかというと感じていない（3点）、感じていない（2点）、全く感じていない（1点）で平均点を集計した。いわゆるシビックプライドである
- 性別では男性のほうが高い
- 年齢では60代以降はとて高くなるが50代が最も低い
- 自営業者と無職のシビックプライドは高く、次いで農林漁業関係者が高い、観光以外の関係者のシビックプライドは低い
- 居住年数では10年から19年が最も高く、次いで、2年～4年目が高い。まだ住んで1年未満だとシビックプライドが醸成されていない
- 旅行回数が年12回、年5～6回の人が高シビックプライドが高い。旅行回数が高いほどシビックプライドが高い傾向があるので、外を見に来るとするのは大事。もしくは旅好きにとって八幡平はシビックプライドが醸成しやすい要素があるのかもしれない

八幡平市で暮らしていることに関する誇り、生きがい、充実感（シビックプライド）（7点満点中）

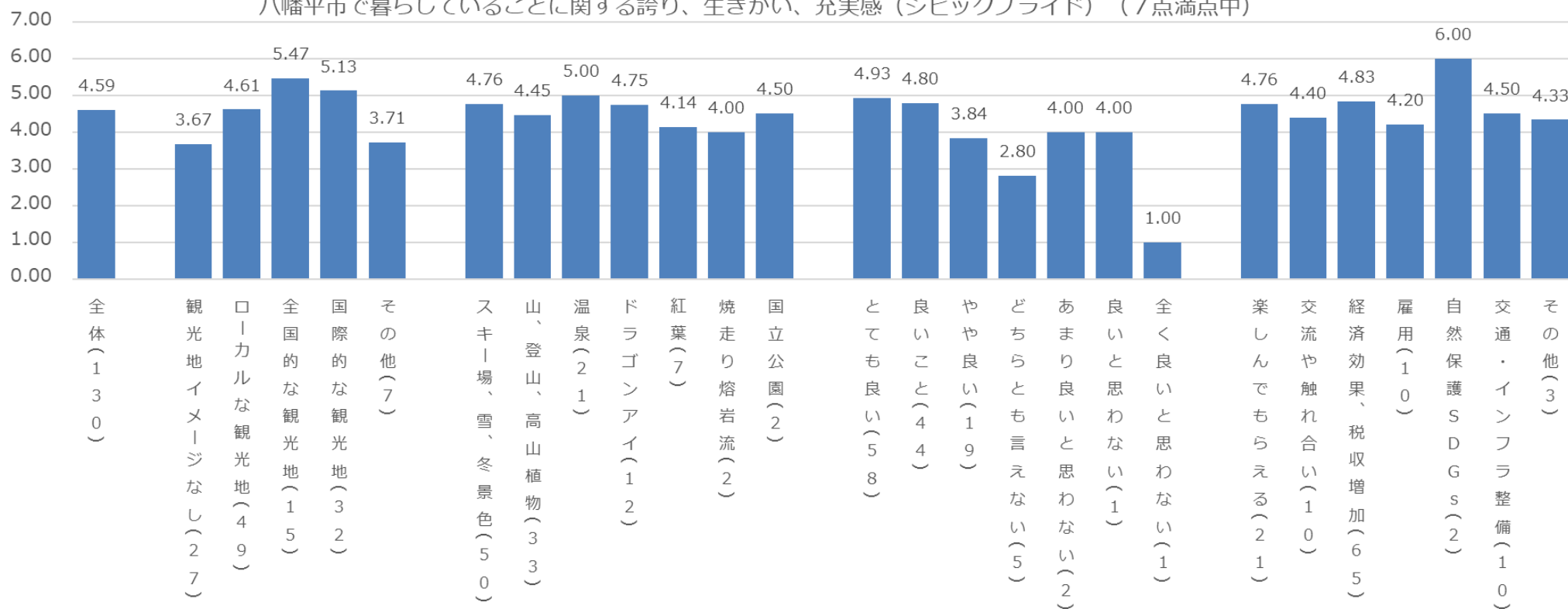


11. シビックプライドと観光

(2) 観光地のイメージ、観光資源イメージ、観光客が増えることの評価

- 八幡平を首都圏や関西からの全国区の観光地と捉えている人が最もシビックプライドが高く、国際的観光地と思っている人が続く。観光地のイメージがなかったり、ローカルな観光地と捉えている人のシビックプライドは低い
- 八幡平の観光資源を温泉と思っている人のシビックプライドは高く、次いでスキーやドラゴンアイが続く
- 観光客が増えることについて評価が高い人のシビックプライドが高い
- 八幡平の観光振興の効果を自然保護やSDGsにつながると考えている人のシビックプライドが高く、他、経済効果と考えている人も比較的高い

八幡平市で暮らしていることに関する誇り、生きがい、充実感（シビックプライド）（7点満点中）

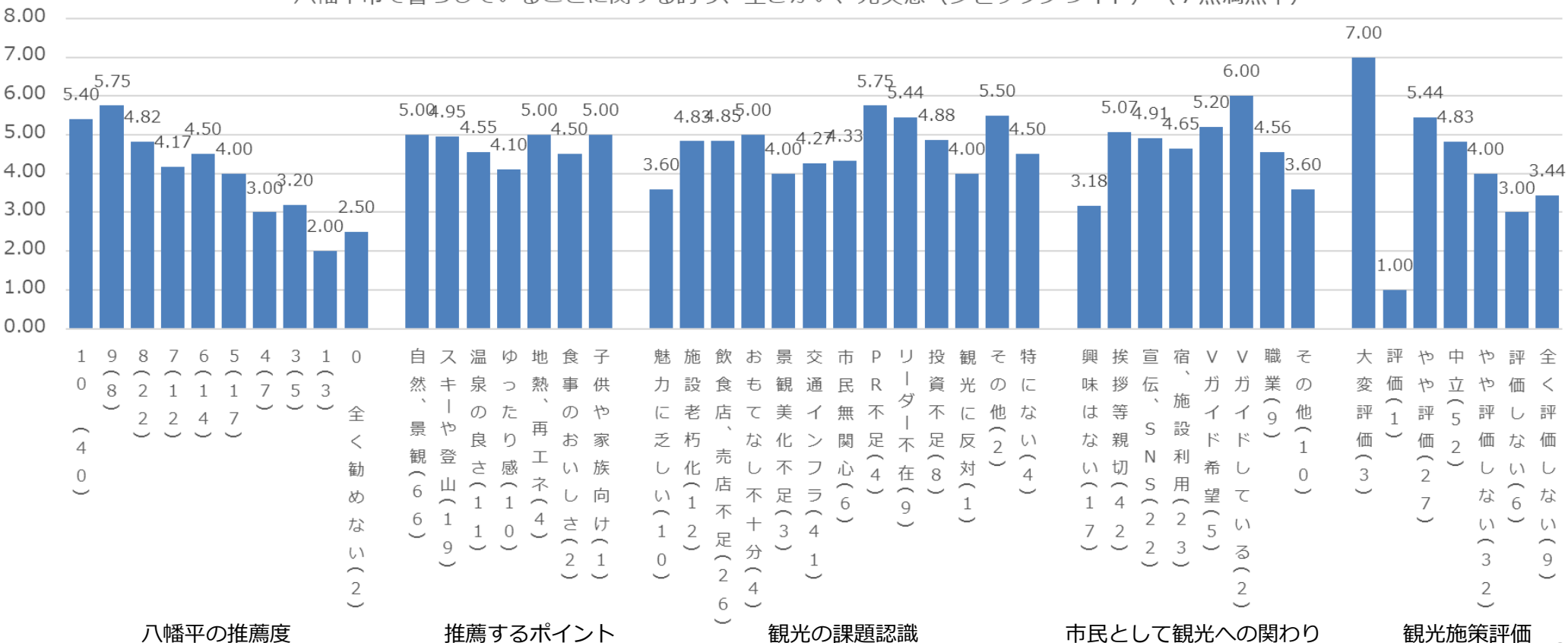


11. シビックプライドと観光

(3) 推薦度、推薦ポイント、課題認識、市民としての関わり、観光施策評価

- 観光地としての八幡平の推薦意向が高い人はシビックプライドが高い
- 推薦するポイントとして地熱や再エネを挙げる人や自然、景観、スキーや登山と考えている人のシビックプライドが高い
- 八幡平の課題をPR不足、リーダー不在と考えている人のシビックプライドが高い
- ボランティアガイドをしている人のシビックプライドは高く、やりたい人もやや高い。施設利用で応援や職業として観光にかかわっている人のシビックプライドは低い
- 基本的には観光行政の評価が高い人ほどシビックプライドが高い

八幡平市で暮らしていることに関する誇り、生きがい、充実感（シビックプライド）（7点満点中）



■ まとめ

- 八幡平市の市民のうち観光地と認識していない人が約2割、ローカル観光地と捉えている人が4割弱で、実際にインバウンドや全国から観光客が多く訪れている点などは認識されていない
- 温泉、登山、スキーなどの観光資源は市民にも認知されており、活動経験としても温泉が最も多い
- 若年層や移住者層は観光活動の参加率が相対的に低く、また女性の観光参加率も男性と比較して低い傾向がある
- 年齢が高くなるにつれて、観光客の増加への評価、観光行政への評価、推薦意向（NPS）、シビックプライドのいずれも前向きな傾向が見られた
- ボランティアガイド等への参加意向は非常に少数にとどまり、「挨拶」「SNS発信」などのライトな関与の意欲が比較的多かつ
- NPSが高いのは60代以上の高齢層、温泉などの観光資源をよく利用している人、市民ガイドやSNS発信などに関与意欲のある層。NPSが低いのは20代・30代の若年層、観光業に実際に従事している自営業者や関係者で、行政に対する期待とのギャップが要因と考えられる
- 観光行政への評価が高いのは高齢層、温泉や登山など観光活動を複数体験している層。評価が低いのは観光業関係者やボランティア実践者、実務者視点で課題を強く感じている可能性がある。
- シビックプライド（地域誇り）に関して、高いのは60代以上の市民や旅行頻度が高い層、移住者層。低いのは若年層や観光に関心が薄い層。観光活動が少ないと誇りも育ちにくい傾向。また、全国的な観光地、国際的な観光地と認識するとシビックプライドが高まる傾向がある
- 市民は交通を含むインフラが整っていないこと、飲食店やショップが少ないこと、宿や観光施設の老朽化を八幡平の課題と捉えており、求める施策でもインフラ整備が最も高かった。しかしながら続いて人的投資を行うことや環境保全、情報発信なども重要な施策として求めている